

共通1次試験

——昭和62年度入試と今後の改革——



昭和62年度版 大学入試センター



— 目 次 —

●はじめに……………	1
●共通第1次学力試験の歩み……………	3
●昭和62年度国公立大学入学者選抜のあらまし……………	6
●大学入学者選抜改善資料……………	19
●大学入試センターのあらまし……………	34
●国公立大学入学者選抜実施状況等……………	36

はじめに

共通第1次学力試験を取り入れた大学入学者選抜制度が目指すところは、まず、大学入試センターと各国公立大学が協力して一斉に行う共通第1次学力試験で、大学教育に必要な基礎学力を備えているかどうかを、受験生の高等学校の段階における一般的・基礎的な学習の達成の程度をみ、次いで各大学が行う第2次試験で、志望する大学の学部・学科の目的、特色などに応じた能力、適性などを評価し、これらの多くの資料を適正に総合することによって可否の判定を行おうとするものです。

現行の入試制度による具体的な運営は、昭和54年度の第1回以来、大学・高等学校を始め、各方面の御尽力と御協力のおかげで、8回の実施を終えていますが、この入試制度について、いろいろな立場から、種々の批判がある一方、実績と経験を評価し、長所と利点をみとめる意見も寄せられています。

およそ、入試制度についての論議ほど、教育的な理念論と現実論とが交錯するものは、他には無いのではなかろうかと考えられます。我が国においては、入試制度は、常に一方で理念的立場から、一方で実際の立場から同時に批判されることを免れることはできません。それは、入試制度がそれ自体独立して存在し得るものではなく、現実の教育制度の在り方や社会的情勢などと深くかかわりを持っているからです。このことを無視した入試システムは実効が期待できず、他方、入試のシステムだけを批判する意見も説得力を欠くと言わざるを得ません。

共通第1次学力試験制度を構想した国立大学協会が意図していたところは、教育制度その他にも重要な解決すべき問題があるにせよ、入試

方法そのものの改善も緊要の課題であると考えたものです。

しかしながら、これらの意見については、あらゆる観点から十分に吟味してみる必要があることは当然です。

大学入試センターでは、これまでも共通第1次学力試験そのものに関する意見などについては、その都度検討し、現行の制度の中で改善できるものは、その後の実施に反映させてきました。

大学に入学しようとする者は、単に合格可能性だけによって志望の大学・学部を決めるのではなく、自己の将来を見定め、志を立てて、進むべきところを選択し、これに向かって全力を傾ける、高等学校は、その志を育てるために適切な進路指導を行う、大学は、その特性に応じた学生を求めて、入学者選抜方法に工夫・改善を凝らす、これこそが大学入試の望むべき姿と言えましょう。このような方向を踏まえ、大学入試センターとしては、各国公立大学ともども、共通第1次学力試験を一層有効に生かすよう工夫・改善を進める努力をしていきたいと考えています。

一方、国立大学協会においても、入試改善特別委員会を設置して、現行制度の基本的な見直しを図り、適切な大学入試の在り方について積極的な検討が進められており、昭和62年度の大学入学者選抜から具体的な改善策として、共通第1次学力試験の出題教科・科目の削減が図られるとともに、国立大学の受験機会の複数化が実施されることになりました。

また、臨時教育審議会から答申された大学入学者選抜制度の改革案については、現在、文部省に設置された大学入試改革協議会において検

討が進められています。

本冊子は、昭和62年度の国公立大学入学者選
抜に当たり、改善が図られた主要事項等のあら

まし及び改善策に係る国立大学協会の関係資料
等を掲載しました。

共通第1次学力試験の歩み

昭和46年2月 国立大学協会の第2常置委員会
入試調査特別委員会が、全国立大学の共通第
1次試験の構想などについて検討を始めた。

昭和46年12月 文部省の大学入試改善会議が、
共通学力検査の実施を含む「大学入学者選抜
方法の改善について」を発表した。

昭和48年4月 国立大学協会が、入試改善調査
委員会を設置し、共通第1次学力試験につい
て具体的な調査研究（試験問題作成、電算機
処理、実施機構など）を開始した。

昭和49年11月 国立大学協会の入試改善調査委
員会が、それまでの調査研究の結果を実際に
即して確かめるため、国立大学の協力のもと
に、全国7地区において高等学校3年生、約
3,000人を対象として、実地研究を行った。

昭和50年11月 国立大学協会の入試改善調査委
員会が、全国7地区14会場において高等学校
3年生約5,000人を対象として、第2回の実地
研究を行った。

昭和51年5月 共通第1次学力試験に関する調
査研究を推進するため、「国立大学入試改善
調査施設」が東京大学に附置された。

昭和51年6月 国立大学協会が総会において、
『共通第1次学力試験の実施は、大学入試の
改善に資する。しかし、この共通第1次学力
試験を実施することについては、種々重要な
問題が残されているので、これらの問題につ
いて、今後文部省とも協議し、慎重に検討し
たうえで方針を決定したい。』との方針を全員
一致で決定した。

また、国立大学の入学者選抜期日について
は、共通第1次学力試験の実施と合わせて、
1期校、2期校の区分を廃止し、一元化して
行うことが望ましいとした。

昭和51年10月 国立大学協会の入試改善調査委
員会が、全国7地区48会場において高等学校
3年生約12,000人を対象として、第3回の実
地研究を行った。

昭和51年11月 国立大学協会が総会において、
『国立大学共通第1次学力試験は、昭和54年
度大学入学者選抜から実施可能である。』との
結論に達した。

昭和51年12月 公立大学協会が臨時総会におい
て、「公立大学においても共通第1次学力試
験を利用する。」との意見をまとめた。

昭和52年5月 大学入試センターが設置され(国
立学校設置法の一部改正)、初代所長に加藤陸
奥雄(前東北大学長)が就任した。

昭和52年6月 文部省が、共通第1次学力試験
及び各大学の第2次試験等の日程等を定めた
「昭和54年度以降における大学入学者選抜実
施要項」を発表した。

昭和52年7月 大学入試センターが、「昭和54年
度大学入学者選抜に係る共通第1次学力試験
実施大綱(試験の実施時期は12月)」を発表し
た。

昭和52年12月 大学入試センターと国公立大学
120校が協力して、高等学校3年生等を対象と
して試行テストを実施した。(出願者数63,609
人、受験者39,673人)

昭和53年1月 国立大学協会が、共通第1次学力試験の実施時期を1月中旬に繰り下げることと決定した。(出願受付10月初旬)

昭和53年6月 大学入試センターが、「昭和54年度大学入学者選抜共通第1次学力試験実施要項」及び「同受験案内」を発表した。

また、広報誌「新しい大学入試」を刊行した。

昭和53年7月 大学入試センターが、全国7地区において、高等学校の進学担当教員等約8,000人を対象として、共通第1次学力試験の説明協議会を開催した。

昭和53年10月 昭和54年度共通第1次学力試験の出願受付(10月2日～16日)を行った。

昭和53年12月 昭和54年度共通第1次学力試験出願時における国立・公立大学の志望状況を発表した。(志願者数 341,875人、平均志願倍率3.7倍)

昭和54年1月 昭和54年度共通第1次学力試験(第1回)が実施された。

また、1週間後にその追試験が実施された。

昭和54年2月 昭和54年度共通第1次学力試験(本試験)の平均点などを発表した。(総得点の平均点636.07点)

昭和54年3月 各国公立大学が第2次試験を実施した。

昭和54年9月 国立大学協会、公立大学協会及び大学入試センターが、国公立大学の入学志願者のための「国公立大学ガイドブック—昭和55年度版—」を共同で編集刊行した。

昭和55年1月 昭和55年度共通第1次学力試験(第2回)が実施された。

国立大学協会及び大学入試センターが、高等学校の学習指導要領の改訂に伴う昭和60年度以降の共通第1次学力試験の在り方について調査研究を開始した。

昭和55年4月 昭和54年度共通第1次学力試験の実施結果を取りまとめた「大学入試センター年報—昭和53年度—」を刊行した。

昭和56年1月 昭和56年度共通第1次学力試験(第3回)が実施された。

昭和56年6月 昭和57年度の共通第1次学力試験から社会の「倫理・社会」及び「政治・経済」の2科目を同時に選択することができないこととした。

また、産業医科大学が、私立大学として初めて共通第1次学力試験に参加することとなった。

昭和57年1月 昭和57年度共通第1次学力試験(第4回)が実施された。

昭和57年4月 所長に小坂淳夫(前岡山大学長)が就任した。

昭和57年11月 国立大学協会が「昭和60年度以降の共通第1次学力試験の出題教科・科目等について」を発表した。

昭和58年1月 昭和58年度共通第1次学力試験(第5回)が実施された。

文部省が「昭和60年度以降の大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和59年1月 昭和59年度共通第1次学力試験(第6回)が実施された。

昭和59年5月 文部省が「昭和60年度の大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和60年1月 昭和60年度共通第1次学力試験(第7回)が実施された。

昭和60年4月 所長に堯天義久(前神戸大学長)が就任した。

文部省が「昭和61年度の大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和60年6月 国立大学協会が、昭和62年度の共通第1次学力試験の改革案を決定した。

昭和60年6月 文部省が「昭和62年度の共通第1次学力試験の出題教科に係る解答方法等について」を発表した。

昭和60年11月 国立大学協会が、国立大学の受験機会の複数化を、昭和62年度から実施する方向で検討することを決定した。

昭和61年1月 昭和61年度共通第1次学力試験(第8回)が実施された。

昭和61年5月 国立大学協会が、国立大学の受験機会の複数化を決定した。

文部省が「昭和62年度の大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和62年度 共通第1次学力試験の出題教科に係る解答方法等について	
1. 試験科目 2. 試験科目の選択方法 3. 試験科目の配点 4. 試験科目の試験時間 5. 試験科目の試験会場 6. 試験科目の試験方法 7. 試験科目の試験用具 8. 試験科目の試験服装 9. 試験科目の試験注意事項	1. 試験科目 2. 試験科目の選択方法 3. 試験科目の配点 4. 試験科目の試験時間 5. 試験科目の試験会場 6. 試験科目の試験方法 7. 試験科目の試験用具 8. 試験科目の試験服装 9. 試験科目の試験注意事項

(注) ① 公立大学の試験日程は、一部上表と異なる場合があるのを注意すること。
② 私立の産業医科大学の試験日程は、国立大学とは異なる。

昭和62年度 国公立大学入学者選抜のあらまし

国立大学、公立大学及び私立の産業医科大学に入学しようとする者は、各大学の第2次試験を受験する前に共通第1次学力試験を受験しなければなりません。(注)

昭和62年度の共通第1次学力試験は、

- 昭和57年度から新しい高等学校学習指導要領が実施されたことに伴い、過去2か年間にわたって実施された旧教育課程履修者に対する経過措置は、廃止されます。
- 出題教科は、国語、社会、数学、理科、外国語の5教科について試験を実施し、社会と理科の受験科目数はそれぞれ1とするとともに、各大学が入学志願者に要求する共通第1次学力試験の受験教科の数は、各大学の決定に委ねることになりました。このことにより、

大学・学部等によっては4教科4科目以下を課すことも可能になりました。

- 各国公立大学が実施する第2次試験については、受験機会の複数化が実施され、二つの大学・学部に出願・受験することが可能になりました。

それらの改善策に基づく、昭和62年度の共通第1次学力試験及び第2次試験の概要は、次のとおりです。

なお、入学者選抜の実施日程は、次頁のとおりです。

(注) 推薦入学の一部及び帰国子女、社会人などについての特別の方法による選抜では、共通第1次学力試験を受験することが免除される場合もあるので、各大学の推薦入学等の募集要項を参照すること。

1 共通第1次学力試験

(1) 目 的

主として、高等学校の段階における一般的かつ基礎的な学習の達成の程度を判定することを目的とする。

(2) 試験の期日及び時間

期 日	試 験 時 間	
昭和62年 1月24日(土)	国 語	13：00—14：40
	理 科	15：30—16：30
1月25日(日)	数 学	10：00—11：40
	外国語	13：00—14：40
	社 会	15：30—16：30

昭和62年度国公立大学入学者選抜実施日程

共通第1次学力試験	年 月 日	各大学が実施する第2次試験
受験案内発表, 配付開始 検定料納付 出願受付 確認はがき送付(出願内容確認) 受験票等の送付 試験実施 正解等を発表 追試験実施	昭和61年7月末まで 9月1日(月)から 原則として9月1日(月) から11月1日(土)まで 10月27日(月)から 11月7日(金)まで 11月30日(日)まで 出願後3週間頃まで 12月下旬まで 昭和62年 1月12日(月)から 19日(月)まで 1月24日(土)・25日(日) 1月26日(月) 1月31日(土)・2月1日(日) 2月7日(土)まで 2月21日(土)まで 3月1日(日)から 3月5日(木)から (特例として3月4日(水)から) 3月6日(金)から 3月20日(金)まで	実施要項発表 募集要項発表 出願受付 推薦入学(共通第1次学力試験を課さない場合)の結果発表(実施大学だけ) 2段階選抜と推薦入学(共通第1次学力試験を課す場合)の結果発表(実施大学だけ) 各国立大学及び公立大学が試験実施(A日程グループ) 各国立大学及び公立大学が試験実施(B日程グループ) 一部の公立大学が試験実施 各国立大学が合格者発表(各公立大学もこれに準ずる)

(注) ① 公立大学の実施日程は、一部上表と異なる場合があるので注意すること。
② 私立の産業医科大学の実施日程は、国立大学とほぼ同じである。

(3) 出題教科・科目等

出題教科・科目等は、次のとおりであり、主として多肢選択による客観式の検査方式で出題し、解答はマークシート方式による。

教科	試験時間 (配点)	出題科目	出題方法等	科目選択の方法
国語	100分 (200点)	『「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」』		
社会	60分 (100点)	『「倫理」・「政治・経済」』 『「日本史」』 『「世界史」』 『「地理」』 『「現代社会」』		左記出題科目の5科目のうちから1科目を試験室で選択し、解答する。 この場合、「現代社会」を選択解答することができる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者で、かつ、共通第1次学力試験の出願時にその科目の受験を申請し、承認された者に限る。
数学	100分 (200点)	『「数学Ⅰ」・「数学Ⅱ」』 『「数学Ⅰ」・「工業数理」』 『「数学Ⅰ」・「簿記会計Ⅰ」・「簿記会計Ⅱ」』	「数学Ⅱ」の電子計算機と流れ図は、出題範囲から除く。 「数学Ⅱ」については、「数学Ⅱ」を履修した者並びに「代数・幾何」、「基礎解析」及び「確率・統計」のうち2科目以上を履修した者のいずれにも対応した出題とする。 「簿記会計Ⅱ」は、前半の内容①特殊な取引の記帳、②帳簿組織、③株式会社の記帳)を出題範囲とする。	左記出題科目の3科目のうちから1科目を選択し、解答する。 この場合、『「数学Ⅰ」・「工業数理」』又は『「数学Ⅰ」・「簿記会計Ⅰ」・「簿記会計Ⅱ」』を選択解答することができる者は、高等学校において「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ」・「簿記会計Ⅱ」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者で、かつ、共通第1次学力試験の出願時にその科目の受験を申請し、承認された者に限る。
理科	60分 (100点)	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 「理科Ⅰ」	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の出題には、「理科Ⅰ」に含まれるそれぞれの科目の関連内容を含む。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を試験室で選択し、解答する。 この場合、「理科Ⅰ」を選択解答することができる者は、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者で、かつ、共通第1次学力試験の出願時にその科目の受験を申請し、承認された者に限る。
外国語	100分 (200点)	『「英語Ⅰ」・「英語Ⅱ」』 「ドイツ語」 「フランス語」		『「英語Ⅰ」・「英語Ⅱ」』とこれに準じた「ドイツ語」及び「フランス語」のうちから1科目を試験室で選択し、解答する。

- (注) 1 「社会」及び「理科」の各出題科目の配点は、いずれも100点とするが、「数学」については、「数学Ⅰ」120点、「数学Ⅱ」80点(「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」も同じ)とする。
2 「工業数理」の使用単位系は、国際単位系(SI)に統一する。
3 「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」は「数学」の試験時間中に選択解答するものとして試験が行われるので、他の科目と同様に、電子式卓上計算機、そろばん、グラフ用紙、定規等の補助具の使用を認めない。
(参考) 「社会」の出題科目の中で、「現代社会」に関して、従前は、必修科目又はこれに代わる科目の履修に対応して、「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」として出題してきたが、今回は、必修科目としての「現代社会」と、選択科目としての『「倫理」・「政治・経済」』とをそれぞれ独立した出題科目としている。

(4) 各大学が課す共通第1次学力試験の教科数

各大学では、「昭和62年度の共通第1次学力試験の出題教科に係る解答方法等について」(昭和60年6月29日付け文高大第210号文部省高等教育局長通知)を受けて、昭和62年度の共通第1次学力試験で受験させる教科を昭和60年7月末日までに決定し発表した。

文部省でまとめられたその概要をみると、

大部分の大学・学部は5教科5科目となっており、4教科4科目以下としたのは、国立大学で14大学18学部(1学科だけのところも含む。)、公立大学は11大学17学部(同)、計25大学35学部となっており、これらの大学、学部等は以下のとおりである。

▼概況

区分	5教科を課す大学・学部		4教科以下を課す大学・学部		計	
	大学	学部	大学	学部	大学	学部
国立大学	〔12〕 93 (97.9%)	〔5〕 337 (96.3%)	14 (14.7%)	18 (5.1%)	95 (100%)	350 (100%)
公立大学	〔8〕 29 (90.6)	〔5〕 64 (84.2)	11 (34.4)	17 (22.4)	32 (100)	76 (100)
私立大学 (産業医科大学)	1 (100)	1 (100)			1 (100)	1 (100)
計	〔20〕 123 (96.1)	〔10〕 402 (94.1)	25 (19.5)	35 (8.2)	128 (100)	427 (100)

(注) 1. ()は、内数で、「4教科以下を課す大学・学部」と重複する数を示す。

内訳は以下のとおり。

国立大学 12大学 秋田、山形、福島、宇都宮、東京芸術、新潟、富山、信州、和歌山、山口、佐賀、鹿児島

5学部 宇都宮(農)、東京芸術(美術、音楽)、新潟(理)、鹿児島(法文)

公立大学 8大学 横浜市立、金沢美術工芸、都留文科、愛知県立、愛知県立芸術、名古屋市立、京都市立芸術、北九州

5学部 横浜市立(文理)、金沢美術工芸(美術工芸)、都留文科(文)、愛知県立(文)、愛知県立芸術(美術)

2. ()は、大学・学部総数に対する比率(%)を示す。

▼ 4 教科以下を課す大学・学部 (25大学35学部)

① 国立大学 (14大学18学部)

大 学	学部・学科等	教 科	教科数	摘 要
北 見 工 業 秋 田 山 形	工	国, 数, 理, 外	4	
	鉱山	国, 数, 理, 外	4	
	工 (A)	数, 理, 外	3	
	工 (B)	数, 理, 外	3	
福 島	経済 (昼)	国, 社, 数, 外	4	
	経済 (夜)	国, 社, 数, 外	4	
宇 都 宮	農			入学定員 (30人) の 3 割以内。残り 7 割は 5 教科
	畜産学科	数, 外	2	
東 京 芸 術	美術			デザイン科, 芸術学科 は 5 教科
	絵画科・日本画	国, 社, 〔数, 理, 外〕から 1	3	
	絵画科・油画	国, 〔社, 数, 理, 外〕から 1	2	
	彫刻科	国, 社, 外	3	
	工芸科	国, 社, 外	3	
	建築科	数, 外	2	
	音楽			
	作曲科	国, 外	2	
	声楽科	国, 外	2	
	器楽科	国, 外	2	
東 京 水 産 新 潟	指揮科	国, 外	2	楽理科は 5 教科
	邦楽科	国, 外	2	
	水産	国, 数, 理, 外	4	
	理			
	数学科	国, 数, 理, 外	4	
	化学科	国, 数, 理, 外	4	
富 山	生物学科	国, 数, 理, 外	4	物理学科, 地質鉱物学 科は 5 教科
	工	国, 数, 理, 外	4	
	経済	国, 数, 外, 〔社, 理〕から 1	4	
	繊維	国, 数, 理, 外	4	
和 歌 山	経済	〔国, 社, 数, 理, 外〕から 3	3	
	人文	国, 社, 数, 外	4	
佐 賀	経済	国, 数, 外, 〔社, 理〕から 1	4	
	法文			
鹿 児 島	経済学科	国, 社, 数, 外	4	法学科, 人文学科は 5 教科

昭和62年度国公立大学入学者選抜のあらまし

② 公立大学 (11大学17学部)

大 学	学部・学科等	教 科	教科数	摘 要
高 崎 経 済 横 浜 市 立	経済	国, 社, 外	3	文科及び理科 (物理, 化学, 生物の 3 課程)
	文理	数, 理, 外	3	
金沢美術工芸	理科・数学課程	数, 理, 外	3	は 5 教科
	商	国, 社, 数, 外	4	
	美術工芸			
都 留 文 科	美術学科	国, 社, 外	3	産業美術学科は 5 教科
	文			
岐 阜 薬 科 愛 知 県 立	国文学科	国, 社, 外	3	初等教育学科は 5 教科
	英文学科	国, 社, 外	3	
	薬	数, 理, 外	3	
愛知県立芸術	社会福祉学科	国, 社, 数, 外	4	国文学科, 英文学科, 児童教育学科は 5 教科
	外国語 (I)	国, 社, 外	3	
	外国語 (II)	国, 社, 外	3	
	美術			
	美術科			
	絵画専攻			
名古屋市立 京都市立芸術 下 関 市 立 北 九 州	日本画	〔国, 数, 外〕から 2, 〔社, 理〕から 1	3	デザイン専攻は 5 教科
	油 画			
	彫刻専攻			
	音楽	〔国, 数, 外〕から 2, 〔社, 理〕から 1	3	
	経済	国, 数, 外, 〔社, 理〕から 1	4	
	音楽	国, 社, 外	3	
下 関 市 立 北 九 州	経済	国, 数, 外, 〔社, 理〕から 1	4	
	文			
	国文学科	国, 社, 数, 外	4	
	英文学科	国, 社, 外	3	
	外国語 (I)	国, 社, 外	3	
	外国語 (II)	国, 社, 外	3	

▼ 5 教科を課すが，特別な選抜方法をとる大学

次の大学・学部は，5 教科を課すが，選抜は次のように行う。

○小樽商科大学（商学部）……………5 教科を課すが，このうち社会，理科の 2 教科については，
どちらか得点の高い方の教科の点数を使用する。

○岩手大学（工学部：1 部の学科）

機械工学科

機械工学第 2 学科

電気工学科

電子工学科

情報工学科

社会の得点は，評価・配点の合計には加えない。

ただし，社会の得点は社会の満点の 10% に達していることが必要条件。

○東京芸術大学（美術学部：デザイン科，芸術学科）
（音楽学部：楽理科）

得点の高い 3 教科を評価の対象とする。

▼教科数を発表していない大学・学部

次の大学・学部は，将来，改組等を計画しているため，現時点では発表を留保している。

国立大学 徳島大学（教育学部）

公立大学 静岡女子大学（文学部，家政学部），静岡薬科大学（薬学部）

(5) 試験問題冊子の注意事項とマークシート

共通第 1 次学力試験の解答は，マークシートにより行われる。このマークシートには，解答に当たって，試験場で選択解答する教科の解答科目を，解答科目マーク欄にマークすることによって示すこととなっている。このため試験問題冊子及び解答用紙には，次に例

示（社会の場合）してあるような，受験時に解答する科目の選択方法などの注意事項を記載し受験者の注意を喚起している。

また，普通科・理数科の卒業（見込み）以外の者を対象とする受験申請科目については，わかりやすくするため，問題冊子を別冊子とするなどの配慮を行っている。

社 会

① 問題冊子の注意事項（抜粋）

社 会 [倫理，政治・経済
日本史 世界史 地理]

(100点 60分)

注 意 事 項

1 一 省 略 一

2 出題科目，ページ及び選択方法は，下表のとおりである。

出 題 科 目	ペ ー ジ	選 択 方 法
倫理，政治・経済	～	左の 4 科目のうちから 1 科目を選択し解答せよ。
日 本 史	～	
世 界 史	～	
地 理	～	

3 一 省 略 一

4 監督者の指示に従って，解答用紙の下記の該当欄にそれぞれ正しく記入し，マークせよ。

① 受験番号欄

受験番号(数字及び英字)を記入し，さらにその下のマーク欄にマークすること。

② 氏名欄，試験場コード欄

氏名(フリガナ)及び試験場コード(数字及び英字)を記入すること。

③ 解答科目マーク欄・解答科目名欄

解答する科目に一つマークし，さらにその科目名を記入すること。

5 受験番号及び解答する科目が正しくマークされていない場合は，採点できないことがある。

6，7，8 一 省 略 一

(現代社会は，別冊子である。科目選択に係る注意事項がないので省略。)

[illegible]

(6) 出願期間等

ア 出願期間 昭和61年10月27日(月)から11月7日(金) (消印有効) まで、検定料は原則として9月1日(月)から11月1日(土)までに納付する。

イ 出願に必要な書類 昭和61年9月上旬から各大学で配付される「昭和62年度大学入学者選抜共通第1次学力試験受験案内」に折り込まれている（出願方法については、同受験案内を参照）。

ウ 身体に障害のある者で受験特別措置を希望する者は「身体障害者受験特別措置申請書」を提出することになっているが、この用紙は、「受験案内別冊」に折り込まれ、大学入試センターで配付しているので、これを必要とする者は大学入試センターに請求すること。

(7) 受験票の発行

出願に基づき、受験票を発行し、12月下旬までに高等学校卒業見込者（通信制の課程を除く。）の受験票等は、在校高等学校長等を経由して入学志願者に送付し、それ以外の者に対しては、志願者あて直接郵送する。

(8) 共通第1次学力試験の試験場

受験票に、指定した試験場を記載する。指定の基準は、次のとおり。

ア 高等学校を昭和62年3月卒業見込みの者（通信制の課程を除く。）……在学する高等学校が所在する試験地区内の試験場（試験地区は、原則として都道府県を単位とする。ただし、北海道、埼玉県、神奈川県、大阪府、兵庫県、長崎県、鹿児島県及び沖縄県にあつては、都道府県単位の原則によらない地区もあるので「受験案内」17・18ページを参照すること。）

イ 高等学校を卒業した者、通信制の課程を卒業見込みの者、大学入学資格検定合格者、

昭和62年度国公立大学入学者選抜のあらまし

高等専門学校第3学年修了者及び文部大臣
の指定した者等……志願票に記入された現
住所の試験地区内の試験場

(9) 身体に障害のある入学志願者についての試験実施上の取扱い

ア 共通第1次学力試験の実施の際、身体に障害のある入学志願者に対しては、障害の種類や程度に応じて特別の措置を行う。

イ アの特別の措置を希望する者は、出願の際所定の出願書類のほか、「身体障害者受験特別措置申請書」を提出する。

ウ 身体に障害のある入学志願者のうち、重度の障害を有する者（受験案内39ページ参照）は、志望する大学・学部で修学上特別な配慮を必要とすることが起こり得るので、出願の前に、遅くとも昭和61年10月15日(木)までに志望する大学と協議することが望ましい。

エ 出願受付締切後の不慮の事故等による負傷者等が特別の受験措置を希望する場合には、審査の上、身体に障害のある入学志願者に準じた受験特別措置を行う。

(10) 再試験

ア 雪や地震などによる災害によって、所定の期日に全教科又は一部の教科の試験が実施できなかった場合に行う。

イ 実施期日は、昭和62年1月31日(土)、2月1日(日)とし、当日の実施が不可能な場合は、それ以降できるだけ速やかに実施する。

(11) 追試験

ア 追試験は、疾病・負傷により2日分の教科を受験できない者〔1月23日(金)午前9時から午後5時（その後の発病等によりやむを得ない場合は1月24日(土)午前10時から正午まで）までに申請し許可された者に限る。〕及び交通事故又は災害等により、2日分の教科又は1日分の教科の試験を受験できな

い者を対象として行う。

イ 実施期日は、昭和62年1月31日(土)、2月1日(日)とし、全国2か所の追試験場で実施する。ただし、再試験をこの期日より後に実施する場合は、再試験と同一の期日とする。

(12) 正解などの発表

共通第1次学力試験の試験問題の正解及び大問・小問の配点は試験終了後に、報道機関を通じて発表する。

なお、共通第1次学力試験の実施より前の

時期（昭和62年については1月12日(月)から1月19日(月)まで）に、各大学・学部の第2次試験への出願を行わせることとなったことにより、受験生が、共通第1次学力試験の成績を、大学入試センターが発表する「正解」、「配点」と対応の上「自己採点」し、その後に発表する「試験実施結果の概要等の中間発表」とも考え合わせた上、第2次試験の出願大学・学部を決定するという内容をもつ「自己採点制度」は、昭和62年度から廃止される。

2 第2次試験

(1) 目的

各大学の学部・学科等の目的、特色、専門分野等の特性にふさわしい能力・適性等を有するか否かを判定することを目的とするものとし、その実施に当たっては、次の諸点に配慮するものとされている。

ア 出題する教科・科目の数については、当該大学・学部の目的、特色、専門分野等の特性に応じ、必要な最少限度とすることが望ましい。

イ 出題形式は、記述式、論文式などにより、入学志願者の記述力、考察力、表現力等が検査できるようにすることが望ましい。共通第1次学力試験に出題された科目から出題する場合は、この出題形式によるよう特

に配慮することが望ましい。

ウ 高等学校の専門教育を主とする学科の卒業生のため、職業に関する基礎的、基本的科目を出題し、選択解答できるよう特に配慮することが望ましい。

(2) 試験の期日

各大学の第2次試験（学力検査、面接、小論文、実技検査など）は、A日程グループが昭和62年3月1日(日)から、B日程グループが3月5日(木)（特例として3月4日から）から各大学が定める期間に実施する。（公立大学の一部では、この時期をずらせて実施するものもある。）

昭和62年度第2次試験実施日程別グループ表は、27、28ページのとおりに。

(3) 実施教科・科目

文部省は、昭和60年11月に、昭和62年度の第2次試験における各大学の実施教科・科目をまとめて、発表した。

その概要をみると、昭和61年度の実施教科・科目と比較して、教科・科目を変更した大

学・学部は国公立大学合わせて48大学76学部であり、変更しなかった大学・学部は国公立大学合わせて111大学351学部となっている。

その内訳は、以下のとおりである。

区 分	実施教科・科目 を発表した大学 ・学部の総数 (a)+(e)		実施教科・科目を変更した大学・学部				実施教科・科目 を変更しなかつ た大学・学部 (e)				
			計 (a)	変更により増加 した (b)	変更により減少 した (c)	変更による増減 なし (d)					
国 立	95	350 (100%)	42	67 (19.1%)	25	37 (10.6%)	22	26 (7.4%)	8	11 (3.1%)	大学 学部 〔27〕 80 283 (80.9%)
公 立	32	76 (100)	6	9 (11.8)	6	8 (10.5)			1	1 (1.3)	〔4〕 30 67 (88.2)
私 立 (産業医科)	1	1 (100)									1 1 (100)
計	128	427 (100)	48	76 (17.8)	31	45 (10.5)	22	26 (6.1)	9	12 (2.8)	〔31〕 111 351 (82.2)

- (注) 1. 改組予定の次の大学・学部は上表に含まない。
(国立) 徳島大学(教育学部)
(公立) 静岡女子大学(文学部、家政学部)、静岡薬科大学(薬学部)
2. ④～⑥には、単に選択科目の一部として増減があっても解答科目数が変わらない場合は含まない。
3. ⑦、⑧、⑨の数には、⑦、⑧、⑨相互間についての重複する数がそれぞれ含まれている。
4. []は内数で、「実施教科・科目を変更した大学 ⑦」と重複する大学数を示す。
(内訳は以下のとおり)
(国立) 北海道、弘前、岩手、秋田、山形、茨城、筑波、埼玉、千葉、お茶の水女子、横浜国立、新潟、富山、信州、岐阜、滋賀、京都、奈良女子、鳥取、島根、岡山、香川、愛媛、佐賀、長崎、大分、琉球
(公立) 名古屋市立、京都府立、大阪市立、山口女子

(4) 出願の受付

各大学の出願受付は、昭和62年1月12日(月)から1月19日(月)までに行う。

(5) 成績の判定

第2次の学力検査を実施する大学における学力検査の成績の判定は、共通第1次学力試

験の成績と第2次の学力検査の成績とを合理的に総合して行うものとされている。この場合、共通第1次学力試験の成績が、この試験の目的に即して、適切に評価されるよう配慮するものとされている。

(6) 試験の方法

第2次試験は、学力検査のほか、小論文、面接、実技検査などにより行われる。

これらは、学力検査だけでは判定し得ない能力・適性などをできる限り多角的に検査するために行うもので、積極的に活用することが望ましいとされている。

(7) 各大学の第2次試験の要項の発表

ア 各大学の第2次試験の内容の基本的な事項（学力検査の実施教科・科目、実技検査や面接、小論文、推薦入学・帰国子女・社会人などについての特別の方法による選抜等の有無など）は、昭和61年7月31日(木)までに決定して発表される。

イ 学部・学科の募集人員、出願期日、第2次の学力検査の実施期日、検定料などの細目は、昭和61年11月30日(日)までに発表される。

(8) 推薦入学

入学定員の一部について、出身学校長の推薦により、学力検査を免除して面接、小論文などの成績と調査書の内容などを主な資料として合否を判定する。この場合、大学・学部・学科の目的、特色、専門分野などの特性に応じて共通第1次学力試験を課する場合と免除して実施する場合の二種類がある。

(9) 第2次募集

第2次募集は、合格発表後の昭和62年3月25日（水）以降に行われ、入学定員の一部をあらかじめ留保して行う「定員一部留保第2次募集」と入学者（合格者）が定員に満たない場合に行う「欠員補充第2次募集」とがある。出願できる者は、3月20日の時点で、何

れの国立大学にも合格していない者（共通第1次学力試験を受験し、何れの国立大学にも出願していない者を含む。）である。

また、3月20日の時点で、一つ又は二つの国立大学に合格していたが、3月25日までに何れの国立大学にも入学手続きをとらなかった者は、3月25日から出願受付を行う「欠員補充第2次募集」の一つの大学・学部に出願・受験することができる。

なお、4月1日以降に行われる「欠員補充第2次募集」については、共通第1次学力試験に出願していない者、及び、これに出願していたが受験していない者にも出願・受験が認められることがある。

(10) 2段階選抜

入学志願者の数が入学定員を大幅に上回り、第2次の学力検査などを適切に実施することが困難である場合に、主として調査書の内容と共通第1次学力試験の成績によって第1段階の選抜を実施し、その合格者について、更に必要な検査などを行って最終的な合格者を決定する。

(11) 帰国子女、社会人のための特別選抜

我が国の社会、産業、経済の国際化に伴い、海外に派遣される両親とともに海外に滞在し現地で教育を受けて数年後帰国した子女又は高等学校等卒業後社会人としての経験を経た者を対象に共通第1次学力試験を免除（一部の大学では共通第1次学力試験を課すところがある。）して、面接、小論文等により大学入学者を選抜するものである。

大学入学者選抜改善資料

○ 国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施要領

- ・ 国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施日程表

○ 国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施細目

○ 昭和62年度国立大学第2次試験実施日程別グループ表

○ 昭和62年度公（私）立大学第2次試験実施日程別グループ表

○ 大学入試改革について 一大学入試改革協議会中間まとめ一

国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施要領

昭和61年5月7日 決一定
昭和61年6月18日 一部修正
国立大学協会

(1) 各大学・学部第2次試験の実施日程のグループ分けとその期日について

各大学・学部第2次試験の実施日程を次に示す2グループとする。

○「A日程グループ」
3月1日をその試験第1日とする大学・学部のグループとする。

○「B日程グループ」
3月5日をその試験第1日とする大学・学部のグループとする。

ただし、このグループに属する大学・学部のうち、合格者発表を3月20日正午までに行うという入学者選抜の日程上特に必要があり、かつ、その試験期日が2日間以上の大学・学部に限って、3月4日をその試験第1日とすることができる。

(2) 第2次試験への出願と「第一志望」、「第二志望」等の取扱いについて

(a) 国立大学志願者は、(1)に示す「A日程グループ」及び「B日程グループ」から合計二つの大学・学部に出願・受験することができる。

(b) 受験生が二つの大学・学部合格したときは、それぞれの合格発表を確認した後に、入学すべき大学・学部を、本人が決定するという、いわゆる「事後選択制」を採用する。

(c) 各大学・学部は、原則として、それぞれの志願者に対し、その出願に当たって、当該大学・学部への志望が「第一志望」、「第二志望」のいずれであるかの記入を求めないものとする。

(d) したがって、各大学・学部は、それぞれの全受験生について、同じ取扱いのもとに入学者選抜を行うものとする。

(e) ただし、各大学・学部は、特に必要があるとき、それぞれの志願者に対して、当該大学・学部への出願が、「第一志望」であるか「第二志望」であるかの記入を求めることができるものとする。

(f) 各大学・学部が、上記(e)に基づいてそれぞれの志願者にその出願に当たって「第一志望」、「第二志望」の別について、志願票等に記入を求めるときは、その理由及びそ

の入学者選抜における用い方等を、募集要項において明記するものとする。

(g) 各大学・学部は、上述の(e)、(f)に代えて、その志願者に対して、併願する国立大学・学部等を、志願票等に記入させることにより、調査することができるものとする。

(h) 各大学・学部が上記(g)に基づいて調査を行うときは、その理由を募集要項等に明記するものとする。

(i) なお、一つの大学内で、異なる学部、又は、同一学部内での異なる学科又はこれに準ずる専攻等に関し、その志望の順位をつけて出願させ、入学者選抜を行う場合には、従来どおり各大学・学部・学科等の定めるところによるものとする。

(j) 上記(i)の出願については、「一つの大学内での複数志望」として取り扱うので、このような場合についても上述(a)に示した合計二つの大学・学部に出願・受験することが

できる。

(k) 推薦入学（共通第1次学力試験を課す場合）、推薦入学（共通第1次学力試験を課さない場合）については、出身高等学校長より推薦を受けた者（以下「推薦入学出願者」と称する。）が、推薦入学について不合格となった場合に備えて、「A日程グループ」及び「B日程グループ」の第2次試験を行う二つまでの大学・学部に出願することができる。

(l) 上記(k)に関して、共通第1次学力試験を課す推薦入学への出願者については、「A日程グループ」及び「B日程グループ」の中から二つの大学・学部に出願するとき、一つは、当該推薦入学出願の大学・学部と同じ大学・学部とし、他の一つは任意の大学・学部とすることができる。

（なお、推薦入学についてのその他の事項は別紙「実施細目」のⅢに示してある。）

(3) 合格者発表と、合格者の入学手続き期日について

(a) 各大学・学部は、前記(1)の日程により第2次試験を実施し、3月20日正午までに合格者を発表する。

(b) 上記(a)の合格者に対する「入学手続きの期間」は、それぞれの大学・学部が定める日より開始し、全大学・学部について3月25日を締切期日とし、これを「入学手続き第1次締切期日」と称する。

次に、補欠（追加）合格者については、3月31日を入学手続き締切期日とし、これを「入学手続き第2次締切期日」と称する。

ただし、「入学手続き第2次締切期日」については、大学の事情により次のように扱うことができる。

『大学が「補欠（追加）合格候補者」に該当する受験生への入学の意志の確認を行う日の最終日』を、原則として3月31日とし、この連絡（連絡の方法は各大学の定めるところによる。）を受けて入学の意志を表明した受験生については、当該大学が指定した日までに入学手続きを完了させるものとする。

(c) 推薦入学についての結果発表は、共通第1次学力試験を課さない場合は2月7日まで、共通第1次学力試験を課す場合は2月21日までとし、いずれの場合の合格者についても、2月26日までに入学手続きを行わせるものとする。

(d) なお、「2段階選抜」に係る第1段階の選抜の結果発表は2月21日までに行うものとする。

(4) 「期日分離第2次試験」、「定員一部留保第2次募集」及び「欠員補充第2次募集」について

- (a) 「A日程グループ」(3月1日から試験実施)及び「B日程グループ」(原則として3月5日から、特例として3月4日から試験実施)の試験期日に試験を行わず、3月25日以降に、その全入学定員を留保して行う第2次試験を「期日分離第2次試験」と称し、これに出願できる者は、3月20日の時点で、何れの国立大学にも合格していない者(共通第1次学力試験を受験し、何れの国立大学にも出願していない者を含む。)とする。
- (b) 従来「第2次募集」と称してきたものを「定員一部留保第2次募集」と「欠員補充第2次募集」の名称に改める。
- これらに出願できる者の条件は、下記(d)、(f)の場合を除き従来どおりとする。(上記(a)と同じ者)
- (c) 上記(a)及び(b)に対する出願条件を満たす者は、「期日分離第2次試験」を実施する大学・学部から一つ、「定員一部留保第2次募集」又は「欠員補充第2次募集」を行う大学・学部から一つ、合計二つの大学・学部に出願・受験することができる。
- (d) 3月20日の時点で、一つ又は二つの国立大学に合格していたが、3月25日までに、いずれの国立大学にも入学手続きをとらなかった者も、3月25日から出願受付を行う「欠員補充第2次募集」の一つの大学・学部に出願・受験することができる。
- (e) 「期日分離第2次試験」、「定員一部留保第2次募集」及び「欠員補充第2次募集」の合格者についての入学手続き期日は別に定める。
- (f) 前記(3)の(b)の「入学手続き第2次締切期日」(原則として3月31日までに大学より該当者に連絡)にかかわる所定の入学手続き期日の最終日(当該大学が定める日)における「全入学手続き完了者」が入学定員に満たないときは、4月1日以降にも、「欠員補充第2次募集」を行うことができる。
- この「4月1日以降に出願受付を行って試験を実施する欠員補充第2次募集」の入学者選抜の方法・合格者発表及びその合格者についての入学手続き期日等については、当該大学が定めるものとする。この場合、共通第1次学力試験に出願していない者、及び、これに出願したが受験していない者にも出願・受験を認めることができる。

(5) 各大学からの請求により大学入試センターから提供する「合格状況資料」について

- (a) 各大学は3月20日までに、それぞれの学部等の入学者選抜単位毎に整理した「合格者リスト」を大学入試センターへ通知する。
- (b) 大学入試センターはこの「合格者リスト」を整理する。
- (c) 各大学は、補欠(追加)合格者数の決定

- 業務に必要があるとき、3月24日以降に大学入試センターへ「合格状況資料」の請求を行うことができる。
- (d) 大学入試センターは、この大学からの請求に基づき、当該大学出願者(当該大学が2月12日から2月21日までの間に、大学入試センターへ共通第1次学力試験の成績を請求したリスト所載者)について、他大学の合格者に、その大学・学部名を付けた「合格状況資料」を当該大学へ提供する。
- (e) この「合格状況資料」の提供は、昭和62年度について行う。

(6) 昭和62年度の実施日程について

付属資料「国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施日程表」に示すとおりとする。

(7) 昭和62年度の実施細目について

この「国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施要領」に示す事項以外の、実施細目については、別紙「国立大学の受験機会

の複数化についての昭和62年度実施細目」に定めるとおりとする。

(注 記)

- (1) 各大学・学部の第2次試験への出願は、共通第1次学力試験の実施より前の時期(昭和62年については1月12日(月)から1月19日(月)まで)に、行わせることとし、いわゆる「自己採点制度」は、これを昭和62年度から廃止する。
- なお、共通第1次学力試験実施後、大学入試センターは、従来どおりの時期に「正

- 解」、「配点」を発表する。
- (2) 本実施要領の(4)の「表題」、(a)、(d)、(e)、並びに実施日程表及び業務日程表中に示した「期日分離第2次試験」は、昭和62年度についてはこれを実施する国立大学はない。
- (3) 昭和63年度以降の大学入学者選抜試験の実施日程、グループ分け等については、更に検討を進める。

〔付属資料〕

国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施日程表

1月①日		3月①日	第2次試験実施（「A日程グループ」） （3月1日～）
2		2	
3		3	
④		4	第2次試験実施（「B日程グループ」） （原則として3月5日～、特例として3月4日～）
5		5	推薦入学合格状況資料請求・提供 （3月5日～）
6		⑥	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
⑪		11	
12	第2次試験出願受付（1月12日～19日）	12	合格者発表（3月20日正午まで）
13		13	合格者を大学入試センターへ通知 （3月20日まで）
14		14	
⑮		⑮	
16		16	
17		17	
⑮		18	
19		19	
20		20	定員一部留保第2次募集出願受付 （3月20日～24日）
21		⑳	
22		㉑	
23		22	
24	共通1次試験実施、本試験 （1月24日・25日）	23	大学入試センターから合格状況資料提供 （3月24日～）
⑮		24	欠員補充第2次募集出願受付・試験実施 （3月25日～）
26	答案読み取り、採点処理等	25	定員一部留保第2次募集試験実施 （3月25日～）
27		26	補欠（追加）合格者決定業務（3月26日～） 定員一部留保第2次募集・欠員補充第2次募集用成績請求・提供 （3月27日～）
28		27	定員一部留保第2次募集 合格者発表 （3月31日まで）
29		⑳	欠員補充第2次募集 合格者発表 （4月上旬まで）
30		30	
31	共通1次試験実施、追試験 （1月31日・2月1日）	31	入学手続き＊
2月①日		4月1日	『4月1日以降に行う「欠員補充第2次募集」』**
2		2	
3		3	
4		④	
5		5	＊「入学手続き」は、合格者発表の後、 それぞれの大学・学部が定める日より開始し、3月25日を「入学手続き第1次締切期日」とする。 補欠（追加）合格者については、3月31日を「入学手続き第2次締切期日」とする。 〔実施要領の(3)の(b)参照〕 「定員一部留保第2次募集」及び「欠員補充第2次募集」については、それぞれの大学・学部が「入学手続き期日」を定める。
6		6	
7	推薦入学（共通1次試験を課さない場合） の結果発表（2月7日まで）	7	
⑧		8	
9		9	
10		10	
⑪			
12	成績請求・提供（2月12日～21日）		
13			
14	推薦入学（共通1次試験を課す場合）の 結果発表（2月21日まで）		
⑮	2段階選抜の結果発表（2月21日まで）		
16			
17			
18			
19			
20			
21			
⑳			
22			
23			
24	推薦入学（共通1次試験を課す場合も、課さない場合も含む。）合格者の入学手続き（2月26日まで）		
25			
26	推薦入学合格者等を大学入試センターへ通知 （2月28日まで）		
27			
28			

（○印日は、日曜・祝・祭日）

国立大学の受験機会の複数化についての昭和62年度実施細目

昭和61年5月7日 決 定
昭和61年6月18日 一部修正
国立大学協会

Ⅰ．各大学・学部の第2次試験の実施日程のグループ分けに関する事項

一つの大学の全学部が「A日程グループ」又は「B日程グループ」に属することの他、一大学内の異なる学部について、「A日程グループ」と「B日程グループ」とに分かれて試験を行うことができる。また、一つの学部において、入学者選抜方法に特色を持たせることを目的とする等のため、その学部の入学定員を二つに分けて「A日程グループ」と「B日程グループ」とに属して試験を行うこともできる。

Ⅱ．「A日程グループ」及び「B日程グループ」の大学・学部の第2次試験に対する受験生の出願に関する事項

受験生が、二つの大学・学部に出願するときは、原則として「A日程グループ」の大学・学部から一つ、「B日程グループ」の大学・学部から一つを選び、出願・受験する。

ただし、受験生が「A日程グループ」の大学・学部からのみの二つ、又は、「B日程グループ」の大学・学部からのみの二つを選んで出願することをさまたげない。この場合に、受験できる大学・学部は通常一つである。

Ⅲ．推薦入学（共通第1次学力試験を課す場合）、推薦入学（共通第1次学力試験を課さない場合）に関する事項

- 「共通第1次学力試験を課す推薦入学」及び「共通第1次学力試験を課さない推薦入学」についての出願期日は、これを実施する大学・学部の定めるところによる。
- 「共通第1次学力試験を課す推薦入学」及び「共通第1次学力試験を課さない推薦入学」についての合格者発表の形式（例えば、推薦を行った高等学校長宛通知等）は当該大学・学部の定めるところによる。
- 「共通第1次学力試験を課す推薦入学」及び「共通第1次学力試験を課さない推薦入学」の合格者については、2月26日までに入学手続きを行わせるので、この合格者としての権利を保全したまま、各大学毎の第2次試験を受験することは認められない。
- 「共通第1次学力試験を課す推薦入学」及び「共通第1次学力試験を課さない推薦入学」の合格者は、推薦入学の趣旨からみて当該大学に入学手続きを行い入学するのが当然であるが、特別の事情があり、当該者の推薦を行った高等学校長から、2月26日までに「推薦入学辞退願」を当該大学・学部へ提出し、その許可を得た場合に限り、その入学辞退を認める。
- 上記(4)の「推薦入学の辞退を許可された

者」について、実施要領の(2)の(k),(l)によって出願済の他の大学・学部があるとき、その第2次試験を受験することができる。

- (6) 推薦入学の合格者が、上記(4)に示した「推薦入学辞退願」を提出して当該大学・学部の許可を得ることがないまま、出願済の大学・学部の第2次試験を受験することは認められない。

また、推薦入学の合格者が、2月26日までに入学手続きを完了しないときは、当該大学・学部の推薦入学合格者としての権利を消失する。

この場合、出願済の大学・学部の第2次試験を受験することも認められない。

- (7) 「共通第1次学力試験を課す推薦入学」及び「共通第1次学力試験を課さない推薦入学」を実施した大学・学部は、それぞれの、「推薦入学合格者」及び「推薦入学合格者のうち入学手続きを完了した者」並びに、上記(4),(5)に示した「推薦入学の辞退を許可された者」のそれぞれの「該当者リスト」を大学入試センターへ通知する。
- (8) 上記(7)についての、該当大学から大学入試センターへの通知は2月28日までに、大学入試センターはこれを整理して、3月5日以降に、大学・学部からの請求に基づき、その資料を提供する。

Ⅳ. 合格者の入学手続きに関する事項

- (1) 入学手続きに当たっては、所定の書類の提出及び入学料等の納入を行わせる他、「共通第1次学力試験受験票」を提出させ、これに入学手続き完了済証として当該大学名を押印する。
- (2) 一つの国立大学に入学手続きを完了したときは、それ以後にこれを取消して、他

の国立大学へ入学手続きをとることは認められない。

ただし、特別の事情があるときは、3月25日までの期間に限り、この入学手続きの変更を認めることができる。

- (3) 「A日程グループ」、「B日程グループ」の大学・学部の第2次試験の合格者は、A、Bいずれの日程グループの大学・学部においても「入学手続き第一次締切期日」(3月25日)までに入学手続きを行わせ、この締切期日までに入学手続きを完了しなかった者は、当該大学への入学の意志がなく入学を辞退した者として取り扱う。

- (4) 推薦入学の合格者については、前記Ⅲの(3),(4),(5),(6)に示すとおりとする。

- (5) 補欠(追加)合格者については、実施要領の(3)の(b)に示すとおり、当該大学が指定した日(3月31日、又は4月1日以降の日)までに入学手続きをとらせ、この日までに入学手続きを完了しない者は、当該大学への入学を辞退した者として扱う。

Ⅴ. 補欠(追加)合格者の取扱に関する事項

- (1) 「補欠(追加)合格候補者」該当者の氏名・受験番号等は、3月25日まではこれを発表しない。
- (2) 補欠(追加)合格者決定業務(補欠(追加)合格候補者への入学意志の確認等を含む。)は「入学手続き第一次締切期日」の翌日(3月26日)より開始する。

(注 記)

公立大学・産業医科大学の第2次試験に関連して、国立大学の実施要領及び実施日程表、並びにこの実施細目に規定すべきことが生じたときは別に定める。

昭和62年度国立大学第2次試験実施日程別グループ表

昭和61年5月7日
国立大学協会まとめ

地区	A日程グループ(3月1日から)	B日程グループ(3月5日から、特例3月4日から)	(注)
北海道	※室蘭工業大学(工学部第1部) 小樽商科大学 帯広畜産大学 旭川医科大学 北見工業大学	北海道大学 北海道教育大学 ※室蘭工業大学(工学部第2部)	※ 学部等をA、B両日程に分けて試験を行う大学
東北	弘前大学 宮城教育大学 山形大学 福島大学	岩手大学 東北大学s 秋田大学	* 特定学部のみ定員を二つに分けてA、B両日程で試験を行う大学
関東・甲信越	図書館情報大学 ※筑波大学(医学、体育、芸術各専門学群) 宇都宮大学 群馬大学 埼玉大学 東京外国語大学 東京学芸大学 東京商船大学 ※横浜国立大学(経済、経営各学部定員の一部) 長岡技術科学大学 山梨大学 信州大学	茨城大学 ※筑波大学(第一、第二、第三各学群) 千葉大学 東京大学s 東京医科歯科大学 東京農工大学 東京芸術大学s 東京工業大学s 東京水産大学 お茶の水女子大学 電気通信大学 一橋大学s ※横浜国立大学(A日程の一部を除く) 新潟大学 上越教育大学 山梨医科大学	s B日程で3月4日から試験を行う大学
中部	金沢大学 福井医科大学 岐阜大学 名古屋大学 愛知教育大学 豊橋技術科学大学	富山大学 富山医科大学 福井大学 静岡大学 浜松医科大学s 名古屋工業大学 三重大学	
近畿	*京都大学(B日程の一部を除く) 京都教育大学 大阪大学 大阪外国語大学 神戸大学 奈良教育大学 奈良女子大学	滋賀大学 滋賀医科大学 ※京都大学(法学部定員の一部) 京都工芸繊維大学 大阪教育大学s 神戸商船大学 兵庫教育大学 和歌山大学	
中国・四国	島根大学 岡山大学 山口大学 徳島大学 鳴門教育大学 ※香川大学(経済学部定員の一部) 香川医科大学 高知大学	鳥取大学 島根医科大学 広島大学 ※香川大学(A日程の一部を除く) 愛媛大学 高知医科大学	
九州	福岡教育大学 九州大学 九州芸術工科大学 長崎大学 大分医科大学 宮崎大学 琉球大学	九州工業大学 佐賀大学 佐賀医科大学 熊本大学 大分大学 宮崎医科大学 鹿児島大学 鹿屋体育大学	

(備考) 各大学の実施日程等については、各大学の募集要項により必ず確認すること。

昭和61年 4 月21日

昭和62年度公(私)立大学第 2 次試験実施日程別グループ表

昭和61年 6 月 2 日 公立大学協会まとめ			
区分	A 日 程 グ ル ー プ (3 月 1 日 から)	B 日 程 グ ル ー プ (3 月 5 日 から、 特 例 3 月 4 日 から)	そ の 他
北 海 道		札幌医科大学	
東 北		福島県立医科大学	
関甲 東信 ・越	横浜市立大学（商）	東京都立大学 横浜市立大学（文理、医） 群馬県立女子大学	高崎経済大学（ 3 ／ 9 ） 東京都立科学技術大学（ 3 ／ 8 ） 都留文科大学（ 3 ／ 8 ）
中 部	愛知県立大学（文）	金沢美術工芸大学 愛知県立大学（外、外二部） 名古屋市立大学（医、経済）	岐阜薬科大学（ 3 ／ 8 ） 静岡薬科大学（ 3 ／ 8 ） 愛知県立芸術大学 （学部学科により A、B 日程も ある。） 名古屋市立大学（薬）（ 3 ／ 9 ）
近 畿	京都府立医科大学 大阪女子大学 大阪市立大学 大阪府立大学（農、経済、総合科、 社会福祉） 神戸商科大学（経済、経営、国際 商学科の 3 学科の定員の一部） 奈良県立医科大学	京都市立芸術大学 京都府立大学 神戸市外国語大学 神戸商科大学（管理学科、3 学科 は A 日程の一部を除く。） 姫路工業大学 和歌山県立医科大学	大阪府立大学（工）（ 3 ／ 9 ）
中四 国・国	広島女子大学 下関市立大学（定員の一部） 山口女子大学	高知女子大学	下関市立大学（ 3 ／ 18 ） （ A 日程の一部を除く）
九 州	九州歯科大学 熊本女子大学	北九州大学 福岡女子大学 長崎県立国際経済大学 沖縄県立芸術大学	
私立	産業医科大学		

（注）各大学の実施日程等については、各大学の募集要項により必ず確認すること。

大学入試改革について

—— 大学入試改革協議会中間まとめ ——

大学入試改革協議会は、臨時教育審議会第 1 次答申における大学入試改革に関する提言の具体化を図るため、昭和60年 7 月以来共通 1 次試験に代わる新しいテストの構想を中心に研究協議を重ねてきたところである。

学歴偏重や受験競争の過熱が教育全体に及ぼす悪影響を是正するため、大学入試改革を推進することは教育改革の重要な課題のひとつであるが、このためには国公私立の大学・高等学校関係者をはじめとする幅広い努力と協力が不可欠である。

このような観点から、別紙のとおりこれまでの本協議会における審議の中間まとめを行い、これを公表し、広くこの問題についての各方面の意見を求めることとした。

本協議会としては今後寄せられる意見を参考としつつ、更に研究協議を進め、本年 7 月を目途として報告をまとめることを予定している。

大学入試改革について

大学入試改革の基本方針

大学入試は、受験生の将来の進路や学部・学科の専門分野等に応じて、その個性・能力・適性を多面的に判断するように努め、受験生の幅広い人間形成に対する十分な配慮のもとに行われるようにすることが必要である。

臨時教育審議会第1次答申が提言する新テストは、国公私立大学を通じてこのような大学入試の在り方に積極的に寄与するものとして構想され活用されなければならない。

このため、各大学においては、新テストの適切な利活用を図ることにより、できる限り学力検査の重複を避け、かつ瑣末な知識の暗記や受験技術の習得を強いるようなテストを行わないようにするとともに、面接・小論文、又はスポーツ・文化等の各種分野における諸活動の適切な評価などを積極的に導入するなどの創意工夫を行うことが強く期待される。

1. 新テストの目的

- ① 関係者の協力により高等学校教育を尊重した優れたテストによる試験を行い、各大学における特色ある多様な入学者選抜のための基礎資料を提供する。
- ② 各大学がこの基礎資料を活用しつつそれぞれ特色ある選抜を実施することにより、受験生個々の個性、適性を活かした進学を容易にする。
- ③ 各大学の特色に基づく多様な活用により、いわゆる輪切り、序列化を助長しないようにする。

2. 新テストの内容等

- ① 新テストの内容については、共通1次試験の経験や研究の成果を十分に活かし、高等学校教育を尊重し、高等学校における基礎的、基本的な内容に関する学習の達成度を評価することを基本とし、難問・奇問を排除した良質な試験問題を用意することとする。
- ② 出題教科・科目については、国・公・私立大学を通ずる多様な利活用を容易にすること及び高等学校教育へ及ぼす影響を考慮して、できる限り多く用意することを目指す。
当面は、これまでの実績を活かしつつ用意できる教科・科目の範囲から出題する。
- ③ テストの水準については、当面は、現在の共通1次試験の水準以上にならないようにし、高等学校教育における基礎的・基本的な内容の学習の達成の判定に必要な限度において行うこととする。
将来は同一教科・科目について内容の異なる複数のものを用意することも考慮する。
- ④ 試験方法については、マークシート方式によるが、これまでの成果を更に発展させて深い思考力、思考過程、総合的な理解力・判断力をよりよく評価することができるよう、なお一層の改善を図る。
また、新大学入試センターのデータ・ベースの整備を図りつつ良質の問題の再利用についても積極的に検討を進めるこ

とが適当である。

- ⑤ 学力テストとは異なった観点から、受験生の将来の進路に応じた能力・適性を評価できるものとして信頼できる適性検査が開発されることは、大学入試改革にとって重要な寄与をなすものと考えられる。

現在直ちに信頼できる適性検査を実施するに足る経験や研究は不足しているが、特定の専門分野のためのものも含め今後優れた適性検査の可能性についての研究を進める。

- ⑥ 新テストの年間複数回の実施については、受験機会の拡大や多様な利活用を容易にする上で重要な課題であり、今後その在り方について、十分専門的技術的検討を行う。

- ⑦ 新テストの実施時期は、大学及び受験生の便宜等を考慮し、12月後半とする。

3. 新テストの利活用

- ① 新テストは、各大学における特色ある多様な入学者選抜を容易にする優れた資料を提供することにより、各大学の積極的な利用を期待する。
- ② 新テストの具体的な利活用は、各大学の判断と創意工夫により自由に行われるべきものであり、各大学が個別に行う試験等との種々の組み合わせの工夫とあいまって、例えば次のような方法が考えられる。

ア. 総合的な利活用

基礎的・基本的な学力を幅広く評価するため、例えば5教科・5科目程度を総合的に利用することが考えられる。

イ. 特定の教科・科目のみの利活用

特定の教科・科目のみ利用することが考えられる。

ウ. 教科・科目内の特定の分野のみの利活用

特定教科・科目の特定分野のみの結果を利用することが考えられる。

エ. 面接、小論文等の前段階としての利活用

面接、小論文等を時間をかけて丁寧に実施するための前段階としての判定に新テストを利用する方法も考えられる。

オ. 推薦入学等の資料としての利活用

推薦入学やスポーツ・文化活動等の評価による判定に際しての参考資料として用いることも可能である。

カ. 成績の多様な利活用

新テストの利用教科・科目間の配点比重を学部・学科の特質、専門性等によって自由に設定するいわゆる傾斜配点方式や結果の素点を得点段階別にグループ化して位置付けて利用する、いわゆる段階別評価方式とすることも考えられる。

また、高得点を得た設問結果のみを利用することも考えられる。

- ③ 新テストを利用するに当たっても、各大学が特定の目的上有意義と判断した場合には、新テストを条件としないで受験しうる枠を設けることも選抜基準・方法の多様化の一環として考えられる。

- ④ 高等学校の専門教育を主とする学科の修了者、帰国子女、社会人の受験及び推薦入学に関し、新テストの内容、利用方法等について適切な配慮を加えることが望ましい。

- ⑤ 新テストの結果は新大学入試センター

から各大学には、原則として、素点を通知するものとし、各大学の創意工夫により適切な活用を期待することとする。

この場合、新テストに係る統計数値がいわゆる輪切りや大学の序列化等に利用されないよう、新大学入試センターは、例えば最高点、最低点、平均点、標準偏差等の統計数値は公表しない等の適切な配慮を払うこととする。

なお、受験生個人への試験結果の通知は行わないこととする。

4. 新テストの実施体制

① 入学者選抜は、各大学の責任において行われるものであり、新テストは各利用大学の選抜の資料の一部である。その意味では、新テストは各大学が共同して実施をする性格のものである。

このような考え方を踏まえつつ利用各大学と新大学入試センターとが協力し、それぞれの分担・責任を明確にして実施する必要がある。

② このような考えの下に、問題作成委員会の設置等を通じて問題作成が各大学関係者の共同により適正・円滑に行われるような仕組みの確立や連携組織の確立等により会場確保・試験実施の際の人的協力を含めた入試業務の円滑な実施等を確保する体制の整備が必要である。

また、秘密保持について十分な配慮が必要である。

③ 新テストの実施・利用に伴う経費等の問題については、国・公・私立大学それぞれの事情を踏まえつつ大学や受験生の負担ができる限り増大しないよう適切な配慮が必要である。

④ 新テストの利用についての新大学入試

センターとの連絡体制を含め、各大学における入学者選抜の責任・実施体制の強化、各大学における特色ある多様な入学者選抜の実現のため入学者選抜に関する専門的な事務及び高等学校や受験生に対する大学の情報の提供業務を適切に行う各大学のアドミッション・オフィスの整備等を図ることが必要である。

5. 新大学入試センターの在り方

① 新大学入試センターの設置形態

新大学入試センターは、新テストの実施及びその他の諸任務を果たす国・公・私立大学の共同利用機関としての性格を明らかにするため国立学校設置法等の関係規定の改正を行う。

② 新大学入試センターの任務

新大学入試センターは、新テストの問題作成・実施・結果の大学への通知、大学入試制度及び入試問題に関する総合的な研究及び各大学の教育活動の状況等大学、高等学校、受験生に必要な情報提供等を主な任務とする。

なお、新大学入試センターは、各大学が独自に行う試験について問題の作成に協力できるよう、十分配慮する必要がある。

③ 新大学入試センターの運営

新テストの在り方及び新大学入試センターの運営に関しては、国・公・私立大学、高等学校等の関係者の意見が十分反映される運営体制が望ましい。

この観点から新大学入試センターに、大学関係者等から成る最高審議機関（評議会：仮称）、新大学入試センターと大学関係者等から成る新大学入試センターの事業の運営実施に関する重要事項を協議

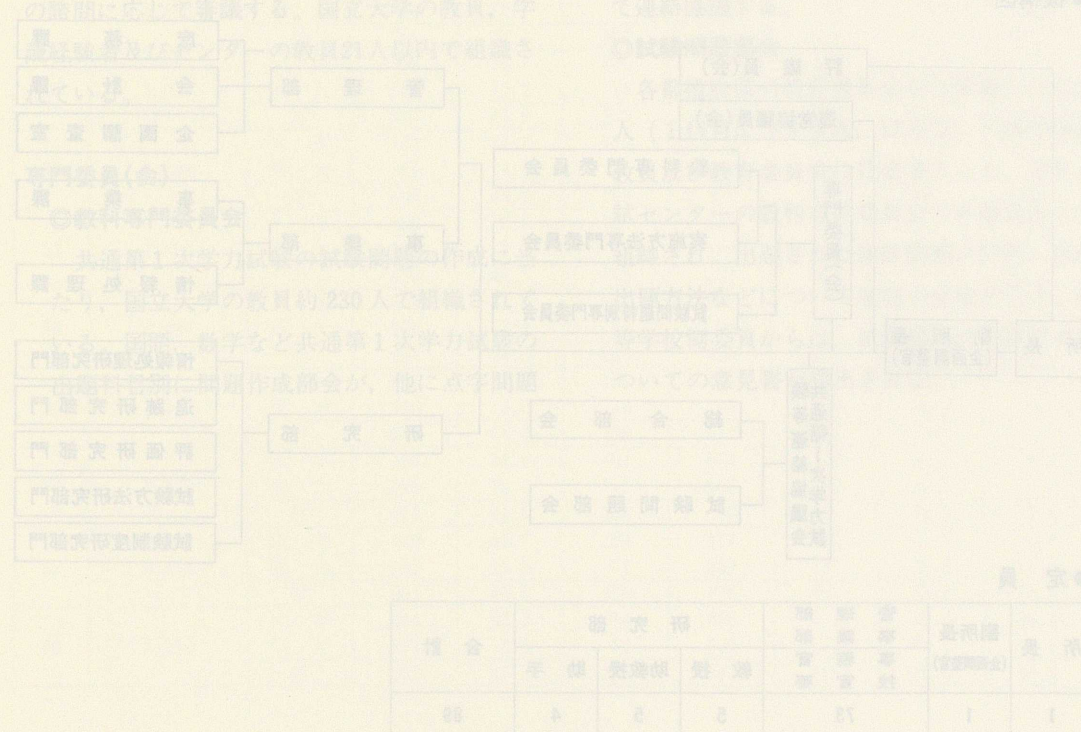
する機関（運営委員会：仮称）、テストの内容、方向等について大学・高等学校関係者等から成る評価組織（評価委員会：仮称）を確立する。

6. 新テストの名称

臨時教育審議会第1次答申にある「共通テスト」の仮称は、新テストの性格からみて必ずしもふさわしくないので、適切な名称とすることが望ましい。

7. 高等学校における進学指導の改善

高等学校における進学指導が偏差値偏重、業者テストの利用等に陥らず、各大学の学部等の教育の目的・内容等に関する十分な知識情報に基づき、各人の個性・適性、進路に応じたものとなるよう改善充実を図るべきである。新大学入試センターも、このような改善に資するため、高等学校や受験生などに適切な情報を提供することが必要である。

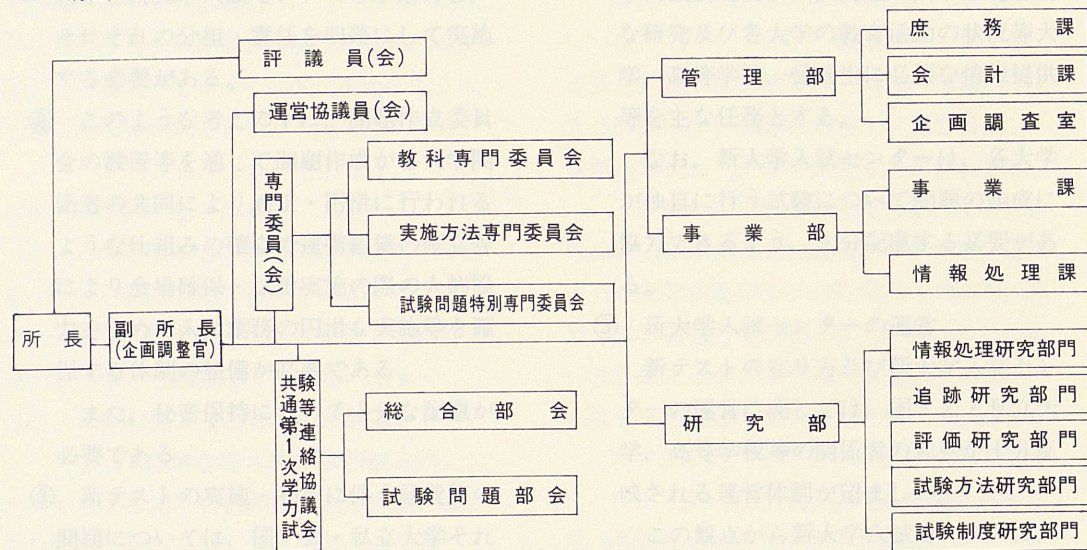


大学入試センターのあらまし

1 目 的

大学入試センターは、「国立大学の入学者の選抜に関し、共通第1次学力試験の問題の作成及び採点その他一括して処理することが適当な業務を行うとともに、大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査研究を行う」ことを目的とし、昭和52年5月、国立学校設置法に基づき、全国立大学の共同利用の性格をもつ機関として設置されました。大学入試センターは、これらの業務のほか、公立大学や私立大学の要請に応じて、その大学の入学者の選抜に関する業務の実施にも協力することができるものとされています。

●機構図



●定 員

所 長	副所長 (企画調整官)	管 理 部	研 究 部			合 計
		管 事 事 務 技 官 等	教 授	助教授	助 手	
1	1	73	5	5	4	89

2 大学入試センターと各大学の業務分担

◎大学入試センター

共通第1次学力試験の問題の作成・印刷、受験案内（出願に必要な書類）等の作成、出願の受付、受験票の発行、試験実施に関する基準の作成、答案の採点・集計、成績の各大学あての提供、その他これらに関連する業務を行います。

◎各国立大学

受験案内等の配付、試験場の設定、試験の実施、答案の整理・発送、その他これらに関連する業務を行います。（各公立大学も国立大学に協力して、これらの業務を行います。）

3 組織・運営

共通第1次学力試験は、国立大学と大学入試センターが協力して実施するものであり、このため、大学入試センターは、各大学の意図が十分に反映され、緊密な連携を保つことができるような編成となっています。また、高等学校側の意見をこの試験の実施に反映させるための組織も設けられています。

各組織の概要は、次のとおりです。

評議員(会)

大学入試センターの事業計画その他の管理運営に関する重要な事項について審議し、所長に助言する。国立大学の学長及び学識経験者15人以内で組織されている。

運営協議員(会)

共通第1次学力試験の実実施計画その他の大学入試センターの運営に関する事項について所長の諮問に応じて審議する。国立大学の教員、学識経験者及びセンターの教員21人以内で組織されている。

専門委員(会)

◎教科専門委員会

共通第1次学力試験の試験問題の作成に当たり、国立大学の教員約230人で組織されている。国語、数学など共通第1次学力試験の出題科目別に問題作成部会が、他に点字問題

に関して特別問題作成部会が置かれている。

◎実施方法専門委員会

共通第1次学力試験の実施方法の策定に当たる。国立大学の教員約20人で組織される。

◎試験問題特別専門委員会

教科専門委員会が作成した試験問題の内容・構成などについて点検・照合を行う。試験問題の作成経験者を中心に、国立大学の教員約50人で組織されている。

共通第1次学力試験等連絡協議会

共通第1次学力試験に関し、高等学校側などと連絡協議を行う。総合部会と試験問題部会とで構成されている。

◎総合部会

高等学校や教育委員会の代表者及び大学入試センターの代表者約20人で組織され、共通第1次学力試験に関する全般的な事項について連絡協議する。

◎試験問題部会

各都道府県教育委員会から推薦された51人（1科目につき3人、17科目）の高等学校教員及び教育委員会の代表者1人と、大学入試センターの教科専門委員会の各部長とで組織され、出題された試験問題の内容、程度、出題方法などについて意見の交換を行う。高等学校側委員からは、試験問題の内容などについての意見書が提出される。

国公立大学入学者選抜実施状況等

1 大学進学状況等

2 国公立大学志願者・受験者・合格者 ―総括表―

3 共通第1次学力試験

4 第2次試験

学 期	期 長 (学長)	審 議 部 審 議 員 教 授 員	研 究 部			合 計
			教 授	助 教 員	助 手	
1	1	73	5	5	4	89

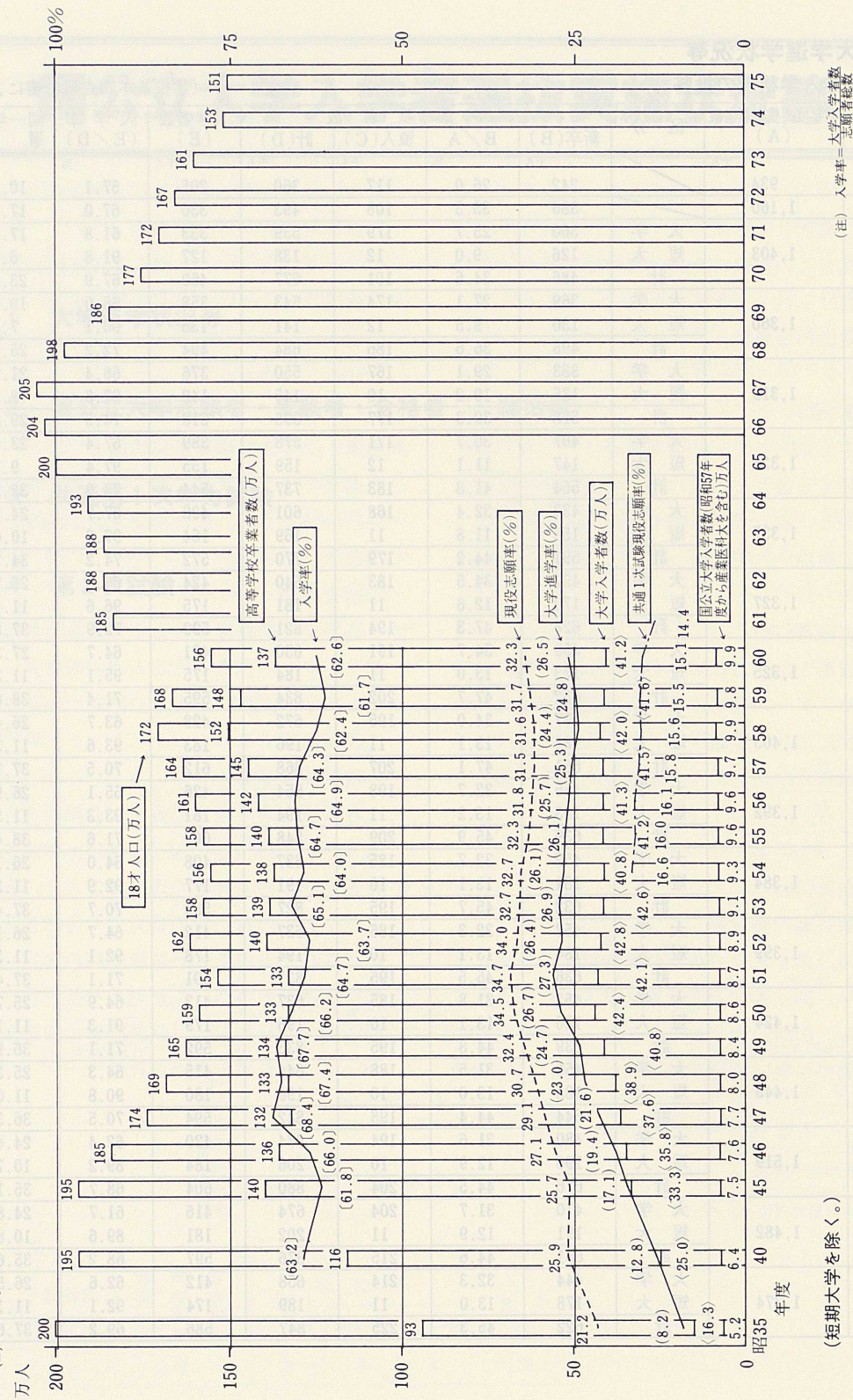
1 大学進学状況等

(1) 大学入学状況の推移

(学校基本調査報告書による)

入学 年度	前年度高校卒業者数 (A)	区 分	入 学 志 願 者 数				入学者数 (E)	入 学 率 (E/D)	同一年令 層 比
			新卒(B)	B/A	浪人(C)	計(D)			
35	934		242	26.0	117	360	205	57.1	10.3
40	1,160		386	33.3	108	493	330	67.0	17.0
45	1,403	大 学	360	25.7	179	539	333	61.8	17.1
		短 大	126	9.0	12	138	127	91.8	6.5
		計	486	34.6	191	677	460	67.9	23.6
46	1,360	大 学	369	27.1	174	543	358	66.0	19.4
		短 大	130	9.5	12	141	136	96.1	7.4
		計	498	36.6	186	684	494	72.2	26.8
47	1,319	大 学	383	29.1	167	550	376	68.4	21.6
		短 大	135	10.2	10	145	142	97.8	8.2
		計	518	39.3	177	695	518	74.5	29.8
48	1,326	大 学	407	30.7	171	578	389	67.4	23.0
		短 大	147	11.1	12	159	155	97.4	9.2
		計	554	41.8	183	737	544	73.9	32.2
49	1,337	大 学	433	32.4	168	601	408	67.7	24.7
		短 大	158	11.8	11	169	164	97.2	10.0
		計	591	44.2	179	770	572	74.2	34.7
50	1,327	大 学	457	34.5	183	640	424	66.2	26.7
		短 大	170	12.8	11	181	175	96.6	11.1
		計	628	47.3	194	821	599	72.9	37.8
51	1,325	大 学	459	34.7	191	650	421	64.7	27.3
		短 大	173	13.0	11	184	175	95.1	11.3
		計	632	47.7	202	834	595	71.4	38.6
52	1,403	大 学	477	34.0	195	672	428	63.7	26.4
		短 大	184	13.1	11	196	183	93.6	11.3
		計	661	47.1	207	868	612	70.5	37.7
53	1,392	大 学	456	32.7	198	654	426	65.1	26.9
		短 大	183	13.2	11	194	181	93.3	11.5
		計	639	45.9	209	848	607	71.6	38.4
54	1,384	大 学	452	32.7	185	637	408	64.0	26.1
		短 大	181	13.1	10	191	177	92.9	11.3
		計	632	45.7	195	827	585	70.7	37.4
55	1,399	大 学	453	32.3	185	637	412	64.7	26.1
		短 大	184	13.1	10	194	178	92.1	11.3
		計	636	45.5	195	831	591	71.1	37.4
56	1,424	大 学	452	31.8	185	637	413	64.9	25.7
		短 大	186	13.1	10	196	179	91.3	11.1
		計	639	44.8	195	833	592	71.1	36.9
57	1,449	大 学	456	31.5	188	644	415	64.3	25.3
		短 大	188	13.0	10	198	180	90.8	11.0
		計	644	44.4	198	842	594	70.5	36.3
58	1,519	大 学	480	31.6	194	674	420	62.4	24.4
		短 大	196	12.9	10	206	184	89.2	10.7
		計	676	44.5	204	880	604	68.7	35.1
59	1,482	大 学	470	31.7	204	674	416	61.7	24.8
		短 大	191	12.9	11	202	181	89.6	10.8
		計	661	44.6	215	876	597	68.2	35.6
60	1,374	大 学	444	32.3	214	658	412	62.6	26.5
		短 大	178	13.0	11	189	174	92.1	11.1
		計	622	45.3	225	847	586	69.2	37.6

(2) 大学入学状況の推移



(注) 入学率 = 大学入学人数 / 大学入学志願者数

(短期大学を除く。)

(3) 大学・短期大学入学志願者・入学者の推移

① 大学

(学校基本調査報告書による)

入学年度	国立			公立			私立			計		
	入学志願者	入学者	倍率	入学志願者	入学者	倍率	入学志願者	入学者	倍率	入学志願者	入学者	倍率
35	250,118	44,847	5.6	59,244	6,925	8.6	485,597	111,150	4.4	794,959	162,922	4.9
40	307,853	54,681	5.6	89,436	9,130	9.8	806,048	186,106	4.3	1,203,337	249,917	4.8
45	372,190	64,519	5.8	104,625	10,215	10.2	1,466,392	258,303	5.7	1,943,207	333,037	5.8
46	362,767	65,484	5.5	83,961	10,321	8.1	1,505,956	282,016	5.3	1,952,684	357,821	5.5
47	372,375	66,877	5.6	84,257	10,317	8.2	1,518,958	298,953	5.1	1,975,590	376,147	5.3
48	384,988	69,582	5.5	85,883	10,401	8.3	1,600,414	309,577	5.2	2,071,285	389,560	5.3
49	412,514	73,190	5.6	90,473	10,434	8.7	1,817,126	323,904	5.6	2,320,113	407,528	5.7
50	452,687	75,479	6.0	104,767	10,673	9.8	2,199,245	337,790	6.5	2,756,699	423,942	6.5
51	482,861	76,537	6.3	92,928	10,479	8.9	2,218,729	333,600	6.7	2,794,518	420,616	6.6
52	504,808	78,323	6.4	94,424	10,718	8.8	2,358,662	339,371	7.0	2,957,894	428,412	6.9
53	509,497	80,237	6.3	103,812	10,797	9.6	2,513,819	334,684	7.5	3,127,128	425,718	7.3
54	270,741	82,533	3.3	69,899	10,578	6.6	2,456,046	314,524	7.8	2,796,686	407,635	6.9
55	255,019	84,731	3.0	64,832	10,848	6.0	2,338,555	316,858	7.4	2,658,406	412,437	6.4
56	242,682	85,422	2.8	66,539	10,805	6.2	2,299,709	317,009	7.3	2,608,930	413,236	6.3
57	237,916	86,348	2.8	64,704	11,151	5.8	2,287,545	317,037	7.2	2,590,165	414,536	6.2
58	252,358	87,790	2.9	66,065	11,203	5.9	2,378,754	321,465	7.4	2,697,177	420,458	6.4
59	245,119	87,569	2.8	63,557	11,114	5.7	2,486,016	317,319	7.8	2,794,692	416,002	6.7
60	259,502	88,103	2.9	63,905	11,364	5.6	2,406,392	312,526	7.7	2,729,799	411,993	6.6

(注) 入学志願者は延べ数

② 短期大学

(学校基本調査報告書による)

入学年度	国立			公立			私立			計		
	入学志願者	入学者	倍率	入学志願者	入学者	倍率	入学志願者	入学者	倍率	入学志願者	入学者	倍率
35	5,082	2,499	2.0	13,397	5,293	2.5	68,681	34,526	2.0	87,160	42,318	2.1
40	6,507	2,502	2.6	26,802	6,495	4.1	137,826	71,566	1.9	171,135	80,563	2.1
45	7,588	3,024	2.5	30,307	7,409	4.1	214,804	116,226	1.8	252,699	126,659	2.0
46	7,076	3,197	2.2	30,244	7,549	4.0	227,080	125,646	1.8	264,400	136,392	1.9
47	7,092	3,148	2.3	30,723	7,581	4.1	232,402	130,902	1.8	270,217	141,631	1.9
48	6,595	3,395	1.9	31,708	7,834	4.0	261,262	143,542	1.8	299,565	154,771	1.9
49	7,446	3,817	2.0	30,943	8,006	3.9	290,971	152,254	1.9	329,360	164,077	2.0
50	10,492	4,371	2.4	34,985	8,189	4.3	333,689	162,370	2.1	379,166	174,930	2.2
51	9,916	4,076	2.4	37,251	8,259	4.5	344,502	162,348	2.1	391,669	174,683	2.2
52	12,243	4,310	2.8	38,630	8,369	4.6	390,561	170,545	2.3	441,434	183,224	2.4
53	14,012	4,296	3.3	39,862	8,525	4.7	409,339	168,360	2.4	463,213	181,181	2.6
54	12,851	4,408	2.9	36,237	8,405	4.3	414,009	164,166	2.5	463,097	176,979	2.6
55	12,615	4,743	2.7	36,673	8,615	4.3	424,835	164,857	2.6	474,123	178,215	2.7
56	13,846	5,072	2.7	37,893	8,881	4.3	454,962	165,118	2.8	506,701	179,071	2.8
57	15,389	5,412	2.8	37,396	8,975	4.2	456,953	165,214	2.8	509,738	179,601	2.8
58	16,438	5,349	3.1	38,600	9,126	4.2	483,170	169,396	2.9	538,208	183,871	2.9
59	18,244	5,452	3.3	40,078	9,383	4.3	472,989	166,388	2.8	531,311	181,223	2.9
60	18,656	5,601	3.3	36,174	9,244	3.9	426,001	158,658	2.7	480,831	173,503	2.8

(注) 入学志願者は延べ数

2 国公立大学志願者・受験者・合格者 総括表

区 分		昭和54年度			昭和55年度			昭和56年度			昭和57年度			
		国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	私立	計
入 学 定 員		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		82,926	9,898	92,824	84,501	10,135	94,636	85,471	10,185	95,656	85,841	10,195	100	96,136
共通1次試験	志願者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		294,962	46,912	341,875	308,011	41,555	349,566	315,847	41,786	357,633	310,450	42,146	147	352,743
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		3.6	4.7	3.7	3.6	4.1	3.7	3.7	4.1	3.7	3.6	4.1	1.5	3.7
第二次試験	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		—	—	327,427	—	—	333,212	—	—	340,757	—	—	—	334,257
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		3.3	7.1	3.7	3.0	6.4	3.4	2.8	6.6	3.2	2.8	6.3	9.1	3.2
合格者	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		254,605	50,418	305,023	240,261	53,760	294,021	231,118	54,788	285,906	225,596	52,630	457	278,683
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9
入 学 者	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		240,158	54,723	490	295,371	232,355	51,320	420	284,095	242,974	52,893	351	296,218	253,493
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9
合格者	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		94,069	15,852	106	110,027	94,195	16,415	106	110,716	94,090	16,862	109	111,061	100,173
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9
入 学 者	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		87,605	11,176	101	98,882	87,343	11,042	103	98,488	87,860	11,300	101	99,261	92,933
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9

- (注) 1 年度は入学年度、(以下、各表において同じ。)
- 2 国立大学の入学定員には、昭和60年度、昭和61年度は東京外国語大学外国語学部日本語学科のうち外国人留学生を対象とする30名を含まない。(昭和54～59年度においては、同大学外国語学部特設日本語学科30名を含まない。)
- 3 第2次試験の志願者数、受験者数には、第2次募集及び推薦入学による者を含み、延べ数である。
- 4 昭和57年度以降は、私立の産業医科大学を含む。
- 5 共通1次試験の志願者数で、志望状況の未記入者分、昭和54年度1人、昭和59年度592人、昭和60年度644人、昭和61年度659人をそれぞれの年度の計に含む。

区 分		昭和58年度				昭和59年度				昭和60年度				昭和61年度			
		国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計
入 学 定 員		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		86,351	10,295	100	96,746	86,571	10,295	100	96,966	86,838	10,295	100	97,233	92,233	10,840	100	103,173
共通1次試験	志願者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		317,387	45,101	121	362,609	314,990	45,130	134	360,846	295,915	39,636	162	336,357	315,609	43,864	174	360,306
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		3.7	4.4	1.2	3.7	3.6	4.4	1.3	3.7	3.4	3.9	1.6	3.5	3.4	4.0	1.7	3.5
第二次試験	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		—	—	—	343,152	—	—	—	341,425	—	—	—	321,126	—	—	—	343,651
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9	7.1	6.6	3.3
合格者	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		240,158	54,723	490	295,371	232,355	51,320	420	284,095	242,974	52,893	351	296,218	253,493	62,753	536	316,782
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9	7.1	6.6	3.3
入 学 者	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		94,069	15,852	106	110,027	94,195	16,415	106	110,716	94,090	16,862	109	111,061	100,173	17,583	107	117,863
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9	7.1	6.6	3.3
合格者	受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		87,605	11,176	101	98,882	87,343	11,042	103	98,488	87,860	11,300	101	99,261	92,933	11,598	102	104,633
	倍 率	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍	倍
		2.9	6.4	7.3	3.3	2.8	6.1	5.6	3.2	3.0	6.1	4.7	3.3	2.9	7.1	6.6	3.3

3 共通第1次学力試験

(1) 志願者・受験者・欠席者

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度							
志 願 者	341,875	人	349,566	人	357,633	人	362,609	人	360,846	人	336,357	人	360,306	人	
受 験 者	327,427		333,212		340,757		334,257		343,152		341,425		321,126		
欠 席 者	14,448(4.23%)		16,354(4.68%)		16,876(4.72%)		18,486(5.24%)		19,457(5.37%)		19,421(5.38%)		15,231(4.53%)		16,655(4.62%)

(2) 志願者の内訳

① 出願資格別

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
高等学校卒業見込み者	228,987 ^人 (67.0%)	224,314 ^人 (64.2%)	229,825 ^人 (64.2%)	228,778 ^人 (64.8%)	236,273 ^人 (65.1%)	229,100 ^人 (63.5%)	207,035 ^人 (61.6%)	233,413 ^人 (64.8%)
高等学校卒業	111,526 (32.6)	123,896 (35.4)	126,473 (35.4)	122,656 (34.8)	125,000 (34.5)	130,392 (36.1)	127,881 (38.0)	125,384 (34.8)
大学入学資格検定合格者	774	820	848	907	971	1,042	1,147	1,227
高等専門学校第3学年修了者	510	453	397	307	240	204	176	171
外国の学校(12年の課程修了者)	63	55	60	68	83	74	73	58
在外教育施設修了者	1,362 ^人 (0.4%)	1,356 ^人 (0.4%)	1,335 ^人 (0.4%)	1,309 ^人 (0.4%)	1,336 ^人 (0.4%)	1,354 ^人 (0.4%)	1,441 ^人 (0.4%)	1,509 ^人 (0.4%)
国際バカロレア資格取得者	2	5	12	11	20	18	21	22
文部大臣の指定した者	—	8	5	8	8	2	2	5
	13	15	13	8	14	14	22	26
合 計	341,875(100.0)	349,566(100.0)	357,633(100.0)	352,743(100.0)	362,609(100.0)	360,846(100.0)	336,357(100.0)	360,306(100.0)

② 男女別

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
男	259,925 ^人 (76.0%)	266,896 ^人 (76.4%)	271,213 ^人 (75.8%)	266,471 ^人 (75.5%)	272,132 ^人 (75.0%)	269,970 ^人 (74.8%)	252,600 ^人 (75.1%)	269,999 ^人 (74.9%)
女	81,950 (24.0)	82,670 (23.6)	86,420 (24.2)	86,272 (24.5)	90,477 (25.0)	90,876 (25.2)	83,757 (24.9)	90,307 (25.1)
合 計	341,875 (100.0)	349,566 (100.0)	357,633 (100.0)	352,743 (100.0)	362,609 (100.0)	360,846 (100.0)	336,357 (100.0)	360,306 (100.0)

③ 高校出身者の学科別

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
普通科	328,001 ^人 (96.3%)	336,281 ^人 (96.6%)	344,516 ^人 (96.7%)	340,112 ^人 (96.8%)	350,349 ^人 (97.0%)	348,964 ^人 (97.1%)	325,071 ^人 (97.1%)	348,382 ^人 (97.1%)
農業科	557 (0.2)	573 (0.1)	561 (0.1)	518 (0.1)	511 (0.1)	446 (0.1)	343 (0.1)	371 (0.1)
工業科	3,455 (1.0)	3,026 (0.9)	2,664 (0.7)	2,243 (0.6)	2,038 (0.6)	1,640 (0.4)	1,373 (0.4)	1,383 (0.4)
商業科	1,138 (0.3)	1,018 (0.3)	923 (0.3)	890 (0.3)	797 (0.2)	670 (0.2)	581 (0.2)	654 (0.2)
理数科	7,362 (2.2)	7,312 (2.1)	6,310 (1.8)	6,276 (1.8)	6,077 (1.7)	6,359 (1.8)	6,179 (1.8)	6,461 (1.8)
その他			1,324 (0.4)	1,395 (0.4)	1,501 (0.4)	1,413 (0.4)	1,369 (0.4)	1,546 (0.4)
合 計	340,513 (100.0)	348,210 (100.0)	356,298 (100.0)	351,434 (100.0)	361,273 (100.0)	359,492 (100.0)	334,916 (100.0)	358,797 (100.0)

④ 受験申請科目(工業数理、簿記会計Ⅰ・Ⅱ)〔数学一般、基礎理科〕の受験申請者

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
新教育課程	工業数理簿記会計Ⅰ・Ⅱ	—	—	—	—	—	92人	98人
旧教育課程	数学一般基礎理科	119人	37人	25人	21人	25人	12人	11人
		195	127	132	108	106	56	22

(参考) 英語A4,623人(54年度)、3,998人(55年度)、3,700人(56年度)、3,225人(57年度)、3,077人(58年度)、2,567人(59年度)

⑤ 出身高等学校別（都道府県単位）

区 分	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	区 分	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
	志 願 者	志 願 者	志 願 者		志 願 者	志 願 者	志 願 者
全 国	360,846	336,357	360,306	滋 賀 県	2,908	2,737	2,970
北 海 道	16,104	15,454	16,149	京 都 府	7,992	7,109	7,540
青 森 県	3,574	3,371	3,788	大 阪 府	29,939	27,362	28,633
岩 手 県	3,806	3,648	3,805	兵 庫 県	16,122	15,094	16,175
宮 城 県	5,365	5,066	5,380	奈 良 県	3,497	3,315	3,586
秋 田 県	3,261	3,011	3,199	和 歌 山 県	3,062	2,566	2,888
山 形 県	3,504	3,155	3,342	鳥 取 県	2,344	2,208	2,370
福 島 県	4,918	4,478	4,811	島 根 県	2,451	2,342	2,666
茨 城 県	6,301	5,995	6,507	岡 山 県	8,334	7,778	8,407
栃 木 県	4,075	4,109	4,456	広 島 県	9,464	8,798	9,538
群 馬 県	5,712	5,363	5,566	山 口 県	5,416	5,151	5,580
埼 玉 県	10,486	10,153	10,734	徳 島 県	3,192	2,856	3,275
千 葉 県	11,594	10,789	11,525	香 川 県	3,585	3,212	3,648
東 京 都	36,232	33,493	34,112	愛 媛 県	5,512	5,015	5,793
神 奈 川 県	17,167	15,916	16,877	高 知 県	2,157	2,001	2,142
新 潟 県	6,041	5,524	5,937	福 岡 県	16,110	15,434	16,445
富 山 県	4,744	4,532	5,015	佐 賀 県	2,657	2,539	2,642
石 川 県	3,980	3,567	3,841	長 崎 県	6,233	5,980	6,373
福 井 県	2,660	2,588	2,772	熊 本 県	6,127	5,638	5,935
山 梨 県	2,496	2,260	2,398	大 分 県	4,272	4,126	4,645
長 野 県	6,695	5,836	6,118	宮 崎 県	4,516	4,248	4,698
岐 阜 県	6,348	5,842	6,557	鹿 児 島 県	6,616	6,451	6,725
静 岡 県	9,090	8,194	8,879	沖 縄 県	5,104	4,951	5,361
愛 知 県	23,165	21,477	24,482				
三 重 県	4,564	4,184	4,512	大学入学資格 検定合格者等	1,354	1,441	1,509

(3) 受験者の内訳

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
志願者	341,875人	349,566人	357,633人	352,743人	362,609人	360,846人	336,357人	360,306人
受験者(所定の全教科目を受験した者)	327,427人	333,212人	340,757人	334,257人	343,152人	341,425人	321,126人	343,651人
本試験(点字受験者を含む。)	327,140	333,026	340,614	334,118	343,049	341,288	320,987	343,518
追試験	287	186	143	113	103	137	139	133
再試験	—	—	—	26	—	—	—	—
欠席者数	14,448	16,354	16,876	18,486	19,457	19,421	15,231	16,655
全教科欠席者数(追試験欠席者を含む。)	13,637	15,359	15,772	17,494	18,116	18,145	13,869	15,290
一部教科欠席者数(追・再試験欠席者を含む。)	811	995	1,104	992	1,341	1,276	1,362	1,365
欠席率	4.23%	4.68%	4.72%	5.24%	5.37%	5.38%	4.53%	4.62%

(参考) 追・再試験受験許可者

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
追試験	受験許可者数	302人	203人	162人	122人	114人	159人	166人
	(疾病・負傷等によるもの)	301	202	158	117	112	158	162
	(事故等)	1	1	4	5	2	1	4
	欠席者数	15	17	19	9	11	22	27
再試験	受験許可者数	—	—	—	27	—	—	—
	欠席者数	—	—	—	1	—	—	—

(4) 身体に障害のある者で特別措置が講じられた人数

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
対 象 者 合 計	143人	135人	166人	186人	188人	192人	226(160)人	247(188)人
障害の種類								
視 覚 障 害	53	45	43	36	54	42	32(28)	36(28)
聴 覚 障 害	49	44	55	68	69	70	57(55)	55(55)
肢 体 不 自 由 等	41	46	68	82	65	80	137(77)	156(105)

(内 訳)

受験の際に取った措置(延数)	視覚障害	点字問題を点字で解答	9人	10人	12人	8人	10人	8人	11人	12(12)人
		拡大文字問題の準備	—	—	—	—	—	23	14(11)	11(10)
		一般問題を文字で解答	14	10	10	13	12	15	11(8)	7(7)
		照明器具の準備	1	8	3	6	14	7	11(10)	2(2)
		窓側の明るい席を指定	27	22	14	16	27	21	12(11)	9(9)
	聴覚障害	拡大鏡等の持参使用	25	17	22	19	30	25	16(13)	10(10)
		手話通訳者の付与	3	2	4	1	3	4	3	—
		座席を前列に指定	28	26	33	40	43	52	38	39(39)
		補聴器の持参使用	39	33	45	58	61	59	50(48)	50(50)
		チェック解答	—	—	—	—	—	—	33(28)	40(36)
	肢体不自由・病弱等	一般問題を文字で解答	9	15	24	20	15	14	—	1
		別室を設定	10	14	16	27	14	27	62(35)	68(44)
		特製机の使用	3	1	5	9	7	11	15(12)	23(22)
		車椅子等の持参使用	24	14	20	32	21	29	28(26)	37(34)
		松葉杖の持参使用	—	—	—	—	—	—	29(15)	37(23)
		洋式トイレに近接する試験室に指定	—	—	—	—	—	—	28(25)	45(40)
		タイプライターの持参使用	—	—	—	—	1	—	—	—
		介助者の付与	—	—	—	—	—	2	6	8(7)
		試験室を一階に設定	36	41	34	51	39	54	43(37)	73(62)
		そ の 他	—	—	42	67	52	61	88(54)	96(61)

(注) ()内は、出願受付時の人数を示す。

(5) 共通第1次学力試験 受験者・平均点の推移（本試験）

年 度 教科・科目名		昭和61年度		昭和60年度		旧科目名	昭和59年度	
		受 験 者	平均点	受 験 者	平均点		受 験 者	平均点
全教科(1,000点満点)		343,518 ^人 %	622.52	320,987 ^人 %	627.03	——	341,288 ^人 %	608.77
国 語	(国 語)	343,518	60.23	320,987	69.06	(国 語)	341,288	61.80
	国 語	343,518 ^(100.0)	60.23	320,987 ^(100.0)	69.06	国 語	341,288 ^(100.0)	61.80
	受験番号誤り等	0 ⁽⁻⁾	—	0 ⁽⁻⁾	—	受験番号誤り等	0 ⁽⁻⁾	—
社 会	(社 会)	343,518	64.24	320,987	63.20	(社 会)	341,288	63.23
	現代社会	301,908 ^(87.9)	69.69	198,980 ^(62.0)	62.22	倫理・社会	217,743 ^(63.8)	67.89
	倫理・政治・経済	38,179 ^(11.1)	70.24	110,587 ^(34.5)	64.35	政治・経済	88,062 ^(25.8)	55.30
地 理	日 本 史	144,146 ^(42.0)	54.34	138,129 ^(43.0)	60.61	日 本 史	152,157 ^(44.6)	63.67
	世 界 史	89,952 ^(26.2)	62.45	87,758 ^(27.3)	62.55	世 界 史	105,658 ^(31.0)	59.48
	地 理	112,704 ^(32.8)	61.82	106,436 ^(33.2)	67.78	地 理 A	64,747 ^(19.0)	61.12
数 学	地 理 B	—	—	—	—	地 理 B	54,117 ^(15.9)	66.11
	受験番号誤り等	147 ^(0.0)	0	84 ^(0.0)	0	受験番号誤り等	92 ^(0.0)	0
	(数 学)	343,518	61.72	320,987	58.11	(数 学)	341,288	54.15
数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ	343,037 ^(99.9)	61.74	320,657 ^(99.9)	58.13	数 学 Ⅰ	341,270 ^(99.9)	54.16
	数学Ⅰ、工業数理	84 ^(0.0)	38.09	84 ^(0.0)	28.80			
	数学Ⅰ、簿記会計Ⅰ・Ⅱ	387 ^(0.1)	46.99	238 ^(0.1)	42.05			
理 科	数学一般	10 ^(0.0)	25.30	8 ^(0.0)	27.25	数学一般	18 ^(0.0)	30.83
	受験番号誤り等	0 ⁽⁻⁾	—	0 ⁽⁻⁾	—	受験番号誤り等	0 ⁽⁻⁾	—
	(理 科)	343,518	62.47	320,987	64.03	(理 科)	341,288	68.46
理 物 理	理 科 Ⅰ	312,149 ^(90.9)	59.48	203,381 ^(63.4)	66.08	物 理 Ⅰ	164,913 ^(48.3)	69.39
	物 理	108,057 ^(31.5)	71.69	114,824 ^(35.8)	65.56	化 学 Ⅰ	270,457 ^(79.2)	70.73
	化 学	127,397 ^(37.1)	62.46	165,587 ^(51.6)	61.84	生 物 Ⅰ	174,151 ^(51.0)	63.93
生 物 学	生 物	112,598 ^(32.8)	62.73	118,709 ^(37.0)	65.55	地 学 Ⅰ	72,821 ^(21.3)	68.91
	地 学	26,543 ^(7.7)	59.94	39,272 ^(12.2)	53.77	基礎理科	87 ^(0.0)	47.28
	基礎理科	17 ^(0.0)	45.03	43 ^(0.0)	42.08	受験番号誤り等	60 ^(0.0)	0
外 国 語	受験番号誤り等	258 ^(0.1)	0	115 ^(0.0)	0	受験番号誤り等	—	—
	(外 国 語)	343,518	62.58	320,987	59.10	(外 国 語)	341,288	56.73
	英 語	343,124 ^(99.9)	62.58	320,600 ^(99.9)	59.10	英 語 B	338,278 ^(99.1)	56.88
外 国 語	英 語 A	—	—	—	—	英 語 A	2,153 ^(0.6)	42.35
	ドイツ語	254 ^(0.1)	61.84	245 ^(0.1)	61.94	ドイツ語	281 ^(0.1)	56.90
	フランス語	140 ^(0.0)	52.59	142 ^(0.0)	64.92	フランス語	208 ^(0.1)	53.96
外 国 語	受験番号誤り等	0 ⁽⁻⁾	—	0 ⁽⁻⁾	—	受験番号誤り等	368 ^(0.1)	0

(注) 1 受験者は、全教科の所定の科目を受験した者
2 各教科の平均点は、100点満点に換算した点数

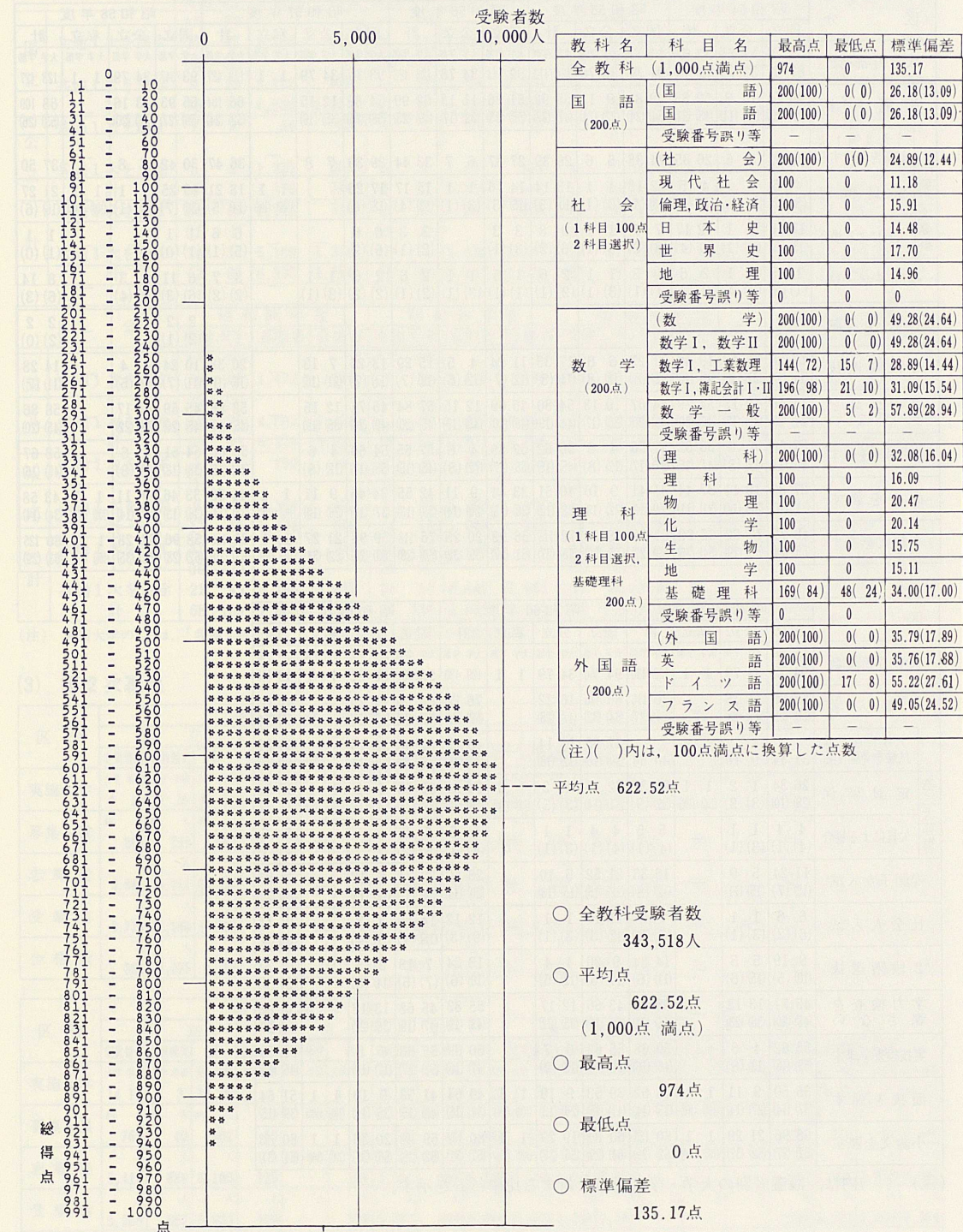
(7) 昭和61年度共通第1次学力試験の得点分布等概況（全教科）

昭和58年度		昭和57年度		昭和56年度		昭和55年度		昭和54年度	
受 験 者	平均点	受 験 者	平均点	受 験 者	平均点	受 験 者	平均点	受 験 者	平均点
343,049 ^人 %	636.10	334,118 ^人 %	620.00	340,614 ^人 %	607.12	333,026 ^人 %	617.36	327,140 ^人 %	636.07
343,049	64.96	334,118	67.46	340,614	66.43	333,026	69.37	327,140	65.99
342,942 ^(99.9)	64.98	334,028 ^(99.9)	67.48	340,506 ^(99.9)	66.45	332,935 ^(99.9)	69.39	326,550 ^(99.8)	66.11
107 ^(0.0)	0	90 ^(0.0)	0	108 ^(0.0)	0	91 ^(0.0)	0	590 ^(0.2)	0
343,049	59.74	334,118	57.63	340,614	63.98	333,026	60.31	327,140	57.87
175,969 ^(51.3)	63.26	134,737 ^(40.3)	62.19	165,668 ^(48.6)	71.88	120,039 ^(36.0)	61.29	72,350 ^(22.1)	61.83
137,586 ^(40.1)	52.19	171,761 ^(51.4)	50.20	242,053 ^(71.1)	60.64	178,394 ^(53.6)	73.42	142,710 ^(43.6)	58.09
153,563 ^(44.8)	59.23	152,116 ^(45.5)	56.18	117,116 ^(34.4)	62.10	155,368 ^(46.7)	51.92	192,039 ^(58.7)	54.01
102,679 ^(29.9)	61.75	98,654 ^(29.5)	62.83	88,633 ^(26.0)	61.04	128,729 ^(38.7)	53.73	159,531 ^(48.8)	57.21
62,351 ^(18.2)	62.98	57,646 ^(17.3)	61.08	32,491 ^(9.5)	62.81	47,451 ^(14.2)	52.63	51,714 ^(15.8)	65.62
53,845 ^(15.7)	61.58	53,212 ^(15.9)	60.96	35,169 ^(10.3)	64.73	35,925 ^(10.8)	62.08	35,494 ^(10.8)	62.18
105 ^(0.0)	0	110 ^(0.0)	0	98 ^(0.0)	0	146 ^(0.0)	0	442 ^(0.1)	0
343,049	69.63	334,118	60.45	340,614	61.67	333,026	73.19	327,140	75.81
342,762 ^(99.9)	69.69	333,852 ^(99.9)	60.50	340,317 ^(99.9)	61.72	332,766 ^(99.9)	73.25	326,477 ^(99.8)	75.96
17 ^(0.0)	35.44	22 ^(0.0)	32.27	18 ^(0.0)	18.83	28 ^(0.0)	25.63	54 ^(0.0)	29.82
270 ^(0.1)	0	244 ^(0.1)	0	279 ^(0.1)	0	232 ^(0.1)	0	609 ^(0.2)	0
343,049	64.42	334,118	66.90	340,614	57.88	333,026	58.93	327,140	56.02
152,358 ^(44.4)	66.67	142,728 ^(42.7)	66.09	164,844 ^(48.4)	51.20	178,844 ^(53.7)	55.17	184,568 ^(56.4)	59.87
255,557 ^(74.5)	68.99	239,397 ^(71.6)	69.49	256,613 ^(75.3)	56.64	259,056 ^(77.8)	56.82	265,323 ^(81.1)	50.58
185,698 ^(54.1)	60.57	187,294 ^(56.1)	65.45	180,421 ^(53.0)	63.36	163,090 ^(49.0)	65.33	153,742 ^(47.0)	60.96
92,193 ^(26.9)	55.96	98,527 ^(29.5)	64.68	78,943 ^(23.2)	63.55	64,582 ^(19.4)	61.93	49,822 ^(15.2)	56.12
85 ^(0.0)	38.33	92 ^(0.0)	36.18	115 ^(0.0)	36.81	107 ^(0.0)	31.11	159 ^(0.0)	32.47
122 ^(0.0)	0	106 ^(0.0)	0	177 ^(0.1)	0	266 ^(0.1)	0	507 ^(0.2)	0
343,049	59.28	334,118	57.54	340,614	53.59	333,026	46.90	327,140	62.35
339,652 ^(99.0)	59.48	330,422 ^(98.9)	57.76	336,362 ^(98.8)	53.82	328,538 ^(98.7)	47.09	321,893 ^(98.4)	62.75
2,582 ^(0.8)	40.50	2,734 ^(0.8)	40.00	3,222 ^(0.9)	35.83	3,467 ^(1.0)	33.34	4,031 ^(1.2)	42.27
305 ^(0.1)	54.33	346 ^(0.1)	52.44	424 ^(0.1)	51.03	331 ^(0.1)	56.28	303 ^(0.1)	60.97
177 ^(0.0)	64.20	235 ^(0.1)	56.45	234 ^(0.1)	56.23	222 ^(0.1)	51.30	192 ^(0.1)	58.33
333 ^(0.1)	0	381 ^(0.1)	0	372 ^(0.1)	0	468 ^(0.1)	0	721 ^(0.2)	0

(6) 中間結果に基づく全国平均点の予測値

教科名	科目名	全国平均点の予測値	予測範囲
全教科	(1,000点満点)	620	± 5
国語 (200点)	国語	120	± 2
社会 (1科目100点 2科目選択)	(社会)	127	± 2
	現代社会	70	± 2
	倫理、政治・経済	70	± 2
	日本史	54	± 2
	世界史	61	± 2
	地理	61	± 2
数学 (200点)	数学I, 数学II	123	± 3
	数学I, 工業数理	77	± 3
	数学I, 簿記会計I・II	94	± 3
	数学一般	51	± 3
	(理科)	125	± 3
理科 (1科目100点 2科目選択, 基礎理科 200点)	理科I	60	± 2
	物理	70	± 2
	化学	62	± 2
	生物	62	± 2
	地学	60	± 2
	基礎理科	90	± 3
外国語 (200点)	英語	125	± 2
	ドイツ語	124	± 2
	フランス語	105	± 2

(7) 昭和61年度共通第1次学力試験の得点分布概略図(全教科)



4 第2次試験

(1) 実施状況の概況

区 分	昭 和 54 年 度			昭 和 55 年 度			昭 和 56 年 度			昭 和 57 年 度			昭 和 58 年 度				
	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計
大学・学部総数	87	327	33 76	120	403	91 336	33 76	124	412	92 344	34 78	126	422	93 347	34 79	1 1	128 427
推 薦 入 学	46 75	6 8	52 83	49 81	9 11	58 92	51 86	11 13	62 99	54 89	12 15	—	66 104	55 93	13 16	—	68 109
	(53) (23)	(18) (11)	(43) (21)	(54) (24)	(27) (14)	(47) (22)	(55) (25)	(32) (17)	(49) (23)	(58) (26)	(35) (19)	—	(52) (24)	(59) (27)	(38) (20)	—	(53) (26)
うち共通1次試験を免除する	21 29	5 6	26 35	24 33	5 6	29 39	27 37	6 7	33 44	29 39	7 8	—	36 47	30 42	7 8	—	37 50
第2次募集	4 5	—	4 5	12 13	1 1	13 14	14 16	1 1	15 17	17 20	—	1 1	18 21	19 25	1 1	1 1	21 27
	(5) (2)	—	(3) (1)	(13) (4)	(3) (1)	(10) (3)	(15) (5)	(3) (1)	(12) (4)	(18) (6)	—	(100) (100)	(14) (5)	(20) (7)	(3) (1)	(100) (100)	(16) (6)
欠員による場合	11 16	1 1	12 17	7 7	1 1	8 8	3 3	—	3 3	6 6	—	—	6 6	1 1	—	—	1 1
	(13) (5)	(3) (1)	(10) (4)	(8) (2)	(3) (1)	(6) (2)	(3) (1)	—	(2) (1)	(6) (2)	—	—	(5) (1)	(1) (0)	—	—	(1) (0)
帰国子女入試	1 5	1 1	2 6	1 5	1 1	2 6	1 5	1 1	2 6	2 6	1 1	—	3 7	6 11	2 3	—	8 14
	(1) (2)	(3) (4)	(2) (1)	(1) (1)	(3) (1)	(2) (1)	(1) (1)	(3) (1)	(2) (1)	(2) (2)	(3) (1)	—	(2) (2)	(6) (3)	(6) (4)	—	(6) (3)
社会人入試	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 2	—	—	2 2
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(2) (1)	—	—	(2) (0)
2 段階 選 抜	12 28	7 12	19 40	11 27	6 6	17 33	11 24	4 5	15 29	13 25	7 13	—	20 38	10 24	4 4	—	14 28
	(14) (9)	(21) (16)	(16) (10)	(12) (8)	(18) (8)	(14) (8)	(12) (7)	(12) (6)	(15) (7)	(14) (7)	(21) (16)	—	(16) (9)	(11) (7)	(12) (5)	—	(11) (7)
学 力 検 査 を 課 さ な い	44 66	10 13	54 79	44 67	10 13	54 80	45 69	12 15	57 84	46 71	12 15	—	58 86	45 69	13 17	—	58 86
	(51) (20)	(30) (17)	(45) (20)	(48) (20)	(30) (17)	(44) (19)	(49) (20)	(35) (19)	(45) (20)	(49) (20)	(35) (19)	—	(45) (20)	(48) (20)	(38) (22)	—	(45) (20)
実 技 検 査 を 課 す	52 56	4 6	56 62	52 56	4 6	56 62	53 59	4 6	57 65	54 60	4 6	—	58 66	54 61	4 6	—	58 67
	(60) (17)	(12) (8)	(47) (15)	(57) (17)	(12) (8)	(45) (15)	(58) (17)	(12) (8)	(45) (15)	(58) (17)	(12) (8)	—	(55) (15)	(58) (18)	(12) (8)	—	(45) (16)
面 接 を 課 す	27 33	10 11	37 44	31 41	9 10	40 51	33 44	9 11	42 55	34 46	9 11	1 1	44 58	33 46	9 11	1 1	43 58
	(31) (10)	(30) (14)	(31) (11)	(32) (12)	(27) (13)	(32) (12)	(36) (13)	(26) (14)	(33) (13)	(37) (13)	(26) (14)	(100) (100)	(34) (14)	(36) (13)	(27) (14)	(100) (100)	(34) (14)
小論文を課す	48 77	17 22	65 99	54 90	18 23	72 113	56 93	20 25	76 118	59 98	21 27	1 1	61 126	58 96	22 28	1 1	80 125
	(55) (24)	(52) (29)	(54) (25)	(59) (27)	(55) (30)	(58) (27)	(61) (27)	(59) (32)	(60) (28)	(63) (28)	(62) (34)	(100) (100)	(63) (30)	(62) (28)	(62) (35)	(100) (100)	(63) (29)

区 分		昭 和 59 年 度				昭 和 60 年 度				昭 和 61 年 度			
		国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計
大学・学部総数		大学 学部 94 350	大学 学部 34 79	1 1	大学 学部 129 430	大学 学部 94 350	大学 学部 34 79	1 1	大学 学部 129 430	大学 学部 95 351	大学 学部 36 81	1 1	大学 学部 132 433
推 薦 入 学		56 98 (60) (28)	14 18 (41) (23)	—	70 116 (54) (27)	60 116 (34) (33)	16 22 (47) (28)	—	76 138 (59) (32)	64 126 (67) (36)	17 23 (47) (28)	—	81 149 (61) (34)
うち共通1次試験を免除する		31 44	9 10	—	40 54	37 55 (39) (16)	11 14 (32) (18)	—	48 69 (37) (16)	41 66 (49) (19)	12 15 (33) (19)	—	53 81 (40) (19)
第二次募集	定 員 留 保	26 34 (28) (10)	1 2 (3) (3)	1 1 (100) (100)	28 37 (22) (9)	32 48 (34) (14)	1 2 (3) (1)	1 1 (100) (100)	34 51 (26) (12)	35 55 (37) (16)	1 2 (3) (2)	1 1 (100) (100)	37 58 (28) (13)
	欠員による場合	4 4 (4) (1)	1 1 (3) (1)	—	5 5 (4) (1)	4 4 (4) (1)	1 1 (3) (1)	—	5 5 (4) (1)	5 6 (5) (2)	—	—	5 6 (4) (1)
	帰国子女入試	11 24 (12) (7)	5 9 (15) (11)	—	16 33 (12) (8)	21 52 (22) (15)	5 10 (5) (13)	—	26 62 (20) (14)	32 74 (34) (21)	6 12 (17) (15)	—	38 86 (29) (20)
社会人入試		6 6 (6) (2)	1 1 (3) (1)	—	7 7 (5) (2)	11 11 (12) (3)	1 1 (3) (1)	—	12 12 (9) (3)	14 15 (15) (4)	3 3 (8) (4)	—	17 18 (13) (4)
2 段 階 選 抜		9 19 (10) (5)	5 5 (15) (6)	—	14 24 (11) (6)	9 20 (10) (6)	4 4 (12) (5)	—	13 24 (10) (6)	7 18 (7) (5)	5 5 (14) (6)	—	12 23 (9) (5)
学力検査を課さない		45 71 (48) (20)	13 18 (38) (23)	—	58 89 (45) (21)	43 66 (46) (19)	12 17 (35) (22)	—	55 83 (43) (19)	45 68 (47) (19)	13 18 (36) (22)	—	58 86 (44) (20)
実技検査を課す		55 62 (59) (18)	4 6 (12) (8)	—	59 68 (46) (16)	55 62 (59) (18)	5 7 (15) (9)	—	60 69 (47) (16)	55 60 (58) (17)	6 8 (17) (10)	—	61 68 (46) (16)
面接を課す		35 50 (37) (14)	9 11 (27) (14)	1 1 (100) (100)	45 62 (35) (14)	39 53 (41) (15)	9 10 (26) (13)	1 1 (100) (100)	49 64 (38) (15)	41 53 (43) (15)	9 10 (25) (12)	1 1 (100) (100)	51 64 (39) (15)
小論文を課す		58 96 (62) (27)	21 29 (62) (37)	1 1 (100) (100)	80 126 (62) (29)	60 102 (64) (29)	19 29 (56) (37)	1 1 (100) (100)	80 132 (62) (31)	59 102 (62) (29)	20 30 (56) (37)	1 1 (100) (100)	80 133 (61) (31)

(注) ()内は、設置者別の大学・学部総数に対する比率(%)を示す。

(2) 推薦入学

区 分	昭和54年度			昭和55年度			昭和56年度			昭和57年度		
	実施大学	志願者	合格者	実施大学	志願者	合格者	実施大学	志願者	合格者	実施大学	志願者	合格者
国立	37	47	1,168	475	38	51	1,083	534	37	52	1,169	503
公立	9	28	3,772	979	11	30	3,909	1,076	14	34	4,433	1,285
計	46	75	4,940	1,454	49	81	4,992	1,610	51	86	5,602	1,788
共通1次を課す	1	2	58	35	4	5	174	92	5	6	209	105
共通1次を免除	5	6	1,337	305	5	6	1,327	319	6	7	1,243	321
計	6	8	1,395	340	9	11	1,501	411	11	13	1,452	426
共通1次を課す	38	49	1,226	510	42	56	1,257	626	42	58	1,378	608
共通1次を免除	14	34	5,109	1,284	16	36	5,236	1,395	20	41	5,676	1,606
計	52	83	6,335	1,794	58	92	6,493	2,021	62	99	7,054	2,214

区 分	昭和58年度			昭和59年度			昭和60年度			昭和61年度		
	実施大学	志願者	合格者	実施大学	志願者	合格者	実施大学	志願者	合格者	実施大学	志願者	合格者
国立	40	56	1,472	617	39	58	1,492	648	40	68	1,850	803
公立	15	37	4,802	1,434	17	40	5,479	1,540	20	48	6,306	1,742
計	55	93	6,274	2,051	56	98	6,971	2,188	60	116	8,156	2,545
共通1次を課す	7	8	230	117	7	8	284	129	7	8	303	145
共通1次を免除	6	8	1,364	423	7	10	1,363	423	9	14	1,509	510
計	13	16	1,594	540	14	18	1,647	552	16	22	1,812	655
共通1次を課す	47	64	1,702	734	46	66	1,776	777	47	76	2,153	948
共通1次を免除	21	45	6,166	1,857	24	50	6,842	1,963	29	62	7,815	2,252
計	68	109	7,868	2,591	70	116	8,618	2,740	76	138	9,968	3,200

(注) 実施大学の()は、「共通1次を課す」と重複しているもので外数である。

(3) 第2次募集

区 分	昭和54年度						昭和55年度					
	国 立	公 立	計	国 立	公 立	計	国 立	公 立	計	国 立	公 立	計
実施大学	4	5	11	16	15	21	—	1	1	1	1	4
募集人員	264	759	1,023	—	26	26	264	785	1,049	738	114	852
志願者	3,846	14,711	18,557	—	121	121	3,846	14,832	18,678	7,100	1,851	8,951
受験者	3,715	13,884	17,599	—	113	113	3,715	13,997	17,712	6,664	1,767	8,431
合格者	382	1,075	1,457	—	44	44	382	1,119	1,501	1,100	184	1,284

区 分	昭和56年度						昭和57年度					
	国 立	公 立	計	国 立	公 立	私立	計	国 立	公 立	私立	計	計
実施大学	14	16	3	3	17	19	1	1	—	1	1	15
募集人員	762	40	802	60	—	60	822	40	862	888	89	977
志願者	5,412	688	6,100	139	—	139	5,551	688	6,239	6,352	1,026	7,378
受験者	5,268	667	5,935	129	—	129	5,397	667	6,064	6,152	1,009	7,161
合格者	1,203	48	1,251	71	—	71	1,274	48	1,322	1,310	148	1,458

第2次試験

区 分	昭 和 58 年 度												昭 和 59 年 度																											
	国 立						公 立						私 立						国 立						公 立						私 立									
	定員留保			欠員補充			計			定員留保			欠員補充			計			定員留保			欠員補充			計			定員留保			欠員補充			計						
	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部								
実施大学	19	25	1	1	20	26	1	1	—	1	1	1	1	21	27	1	1	22	28	26	34	4	4	27	38	1	2	1	1	2	3	1	1	28	37	5	5	30	42	
募集人員	約 992	人	約 13	人	約 1,005	人	約 40	人	約 —	人	約 40	人	約 25	人	約 1,057	人	約 13	人	約 1,070	人	約 1,253	人	約 49	人	約 1,302	人	約 100	人	約 43	人	約 143	人	約 25	人	約 1,378	人	約 92	人	約 1,470	人
志 願 者	8,846	人	210	人	9,056	人	460	人	—	人	460	人	443	人	9,749	人	210	人	9,959	人	9,277	人	449	人	9,726	人	514	人	307	人	821	人	297	人	10,088	人	756	人	10,844	人
受 験 者	8,519	人	205	人	8,724	人	460	人	—	人	460	人	218	人	9,197	人	205	人	9,402	人	7,749	人	434	人	8,183	人	514	人	307	人	821	人	172	人	8,435	人	741	人	9,176	人
合 格 者	1,398	人	13	人	1,411	人	59	人	—	人	59	人	31	人	1,488	人	13	人	1,501	人	1,802	人	63	人	1,865	人	174	人	46	人	220	人	32	人	2,008	人	109	人	2,117	人

区 分	昭 和 60 年 度												昭 和 61 年 度																										
	国 立				公 立				私 立				国 立				公 立				私 立																		
	定員	留保	欠員	補充	計	定員	留保	欠員	補充	計	定員	留保	欠員	補充	計	定員	留保	欠員	補充	計	定員	留保	欠員	補充	計														
実施大学	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部	大学	学部													
	32	48	4	4	33	50	1	2	1	1	2	3	1	1	34	51	5	5	36	54	35	55	5	6	36	59	1	2	—	1	2	1	1	37	58	5	6	38	62
募集入員	約	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	1,720		120		1,840		100		34		134		30		1,850		154		2,004		2,089		62		2,151		100		—		100		30		2,219		62		2,281
志 願 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	12,577		1,654		14,231		856		251		1,107		292		13,725		1,905		15,630		12,180		415		12,595		651		—		651		289		13,120		415		13,535
受 験 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	11,167		454		11,621		856		251		1,107		180		12,203		705		12,908		11,126		399		11,525		651		—		651		185		11,962		399		12,361
合 格 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	2,280		149		2,429		154		40		194		39		2,473		189		2,662		2,838		76		2,914		120		—		120		37		2,995		76		3,071

(注) 1 国立大学のうち、55年度 1 大学、57年度 2 大学、59年度 3 大学、60年度 3 大学 2 学部、61年度 4 大学 2 学部については、「定員留保」と「欠員補充」との両方に重複して算入している。
2 募集人員を若干名としているものについては、募集人員欄では除いている。

(4) 2段階選抜

区 分		昭 和 54 年 度			昭 和 55 年 度			昭 和 56 年 度			昭 和 57 年 度		
		国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計
実 施 予 告 大 学		大学 学部 38 122	大学 学部 14 26	大学 学部 52 138	大学 学部 34 96	大学 学部 14 23	大学 学部 48 119	大学 学部 33 93	大学 学部 12 22	大学 学部 45 115	大学 学部 32 89	大学 学部 13 23	大学 学部 45 112
実 施 大 学		大学 学部 12 28	大学 学部 7 12	大学 学部 19 40	大学 学部 11 27	大学 学部 6 6	大学 学部 17 33	大学 学部 11 24	大学 学部 4 5	大学 学部 15 29	大学 学部 13 25	大学 学部 7 13	大学 学部 20 38
入 学 定 員		人 4,241	人 1,445	人 5,686	人 6,609	人 1,080	人 7,689	人 5,984	人 860	人 6,844	人 6,339	人 1,425	人 7,764
志 願 者		人 15,684	人 22,532	人 38,216	人 24,337	人 11,872	人 36,209	人 20,318	人 11,618	人 31,936	人 21,568	人 16,278	人 37,846
第1段階選抜合格者		人 12,734	人 12,534	人 25,268	人 19,464	人 10,304	人 29,768	人 17,081	人 8,364	人 25,445	人 18,401	人 12,567	人 30,968
不 合 格 者 数		人 2,950	人 9,998	人 12,948	人 4,873	人 1,568	人 6,441	人 3,237	人 3,254	人 6,491	人 3,167	人 3,711	人 6,878

区 分	昭 和 58 年 度			昭 和 59 年 度			昭 和 60 年 度			昭 和 61 年 度		
	国 立	公 立	計	国 立	公 立	計	国 立	公 立	計	国 立	公 立	計
実 施 予 告 大 学	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部
	30 84	11 21	41 105	30 84	12 22	42 106	25 77	12 25	37 102	25 75	12 25	37 100
実 施 大 学	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部	大学 学部
	10 24	4 4	14 28	9 19	5 5	14 24	9 20	4 4	13 24	7 18	5 5	12 23
入 学 定 員	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	6,579	780	7,359	5,799	815	6,614	4,788	675	5,463	4,858	1,045	5,903
志 願 者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	22,369	11,460	33,829	18,847	11,342	30,189	17,233	7,990	25,223	15,807	13,555	29,362
第1段階選抜合格者	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	19,677	8,366	28,043	16,909	8,472	25,381	14,027	6,151	20,178	13,999	9,548	23,547
不 合 格 者 数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	2,692	3,094	5,786	1,938	2,870	4,808	3,206	1,839	5,045	1,808	4,007	5,815

(5) 共通第1次学力試験及び第2次試験の成績の配点(比率)等の公表状況

区 分	大 学 単 位						学 部 単 位					
	昭和59年度			昭和60年度			昭和59年度			昭和60年度		
	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計
	94	34	129	94	34	129	94	34	129	94	34	129
大学・学部総数	94	34	129	94	34	129	94	34	129	94	34	129
配点(比率)を公表している。	88	32	121	88	32	121	88	32	121	88	32	121
共通1次試験の成績を重視する	55	21	76	55	21	76	55	21	76	55	21	76
1次・2次試験の成績を均等にみる	6	—	6	6	—	6	6	—	6	6	—	6
2次試験の成績を重視する	4	3	7	4	3	7	4	3	7	4	3	7
学部(学科)単位で配点(比率)が異なる大学(学部)	23	8	31	23	8	31	23	8	31	23	8	31
共通1次試験の教科間の配点(比率)に軽重をつけている	52	24	77	52	24	77	52	24	77	52	24	77

(注) 1 ()内は、大学・学部総数に対する比率を示し、「内訳」欄については「配点(比率)」を公表している。大学・学部に対する比率を示す。
2 「学部(学科)単位で配点(比率)が異なる大学(学部)」欄においては、「学部単位で配点(比率)が異なる大学」を、学部単位については「学科単位で配点(比率)が異なる学部」をそれぞれ示す。
3 この表には「共通1次試験のみ公表」や「2次試験のみ公表」といった大学・学部は算入していない。ただし、共通1次試験のみ公表で軽重のある場合は、「共通1次試験の教科間の配点(比率)に軽重をつけている」大学・学部を含む。

(6) 昭和61年度学部系統別の概況

① 選抜方法等

区 分		学部数	学力検査を課さない		第2次募集		2段階選抜	実技検査	面接	小論文
					定員留保	欠員の ある場合				
			学部数%	学部数%	学部数%	学部数%	学部数%	学部数%	学部数%	学部数%
人文科学系	国立	(1) 34	3(8.8)	(1) 3(8.8)	1(2.9)	(1) 1(2.9)	7(20.6)	2(5.9)		(1) 14(41.2)
	公立	(5) 24	4(16.7)	(2) 8(33.3)		(1) 2(8.3)	6(25.0)			(1) 9(37.5)
社会科学系	国立	(10) 56	(5) 6(10.7)	(7) 22(39.3)	(1) 13(23.2)	(2)	14(25.0)		(1) 2(3.6)	(2) 16(28.6)
	公立	(5) 20	3(15.0)	6(30.0)	2(10.0)		8(40.0)			(1) 7(35.0)
理 学 系	国立	29	3(10.3)	9(31.0)	10(34.5)	2(6.9)	4(13.8)		4(13.8)	4(13.8)
	公立	(1) 3		1(33.3)			2(66.7)			2(66.7)
工 学 系	国立	(6) 54	(1) 1(1.9)	(5) 31(57.4)	(2) 17(31.5)	(1) 5(9.3)	3(5.6)	(1) 4(7.4)	(1) 5(9.3)	(1) 4(7.4)
	公立	(1) 5		1(20.0)			3(60.0)		(1) 2(40.0)	(1) 2(40.0)
農 学 系	国立	37	7(18.9)	30(81.1)	8(21.6)	3(8.1)	5(13.5)		5(13.5)	9(24.3)
	公立	2		2(100.0)		1(50.0)				
医 歯 学 系	国立	52	1(1.9)	4(7.7)	1(1.9)		18(34.6)		20(38.5)	17(32.7)
	公立	9					2(22.2)		3(33.3)	3(33.3)
	私立	1			1(100.0)				1(100.0)	1(100.0)
薬 学 系	国立	11			1(9.1)		3(27.3)			
	公立	3					2(66.7)		2(66.7)	
教員養成系	国立	(1) 50	(1) 41(82.0)	18(36.0)	3(6.0)	13(26.0)	3(6.0)	49(98.0)	11(22.0)	(1) 30(60.0)
	公立									
商 船 学 系	国立	2		1(50.0)	1(50.0)	1(50.0)				
	公立									
家 政 学 系	国立	2								1(50.0)
	公立	8	5(62.5)	4(50.0)		2(25.0)		2(25.0)	1(12.5)	5(62.5)
教 養 学 系	国立	1								
	公立									
芸 術 学 系	国立	2	2(100.0)					2(100.0)	2(100.0)	2(100.0)
	公立	5	5(100.0)				2(40.0)	5(100.0)	1(20.0)	1(20.0)
体 育 学 系	国立	1	1(100.0)	1(100.0)		1(100.0)		1(100.0)	1(100.0)	1(100.0)
	公立									
学 群	国立	6	3(50.0)	5(83.3)			6(100.0)	2(33.3)	3(50.0)	2(33.3)
	公立									
文 類	国立	6					6(100.0)			1(16.7)
	公立									
理 類	国立	6					6(100.0)			
	公立									
そ の 他	国立	1		1(100.0)						1(100.0)
	公立									
計	国立	(18) 350	(7) 68(19.4)	(13) 125(35.7)	(3) 55(15.7)	(4) 26(7.4)	75(21.4)	(1) 60(17.1)	(2) 53(15.1)	(5) 102(29.1)
	公立	(12) 79	17(21.5)	(2) 22(27.8)	2(2.5)	(1) 5(6.3)	25(31.6)	7(8.9)	(1) 9(11.4)	(3) 29(36.7)
	私立	1			1(100.0)				1(100.0)	1(100.0)

- (注) 1 各欄の比率は、各区分ごとの学部数に対する割合である。
2 北大、東大の19学部(北大9、東大10)については、文類、理類に分類した。
3 表中の()内は、第2部及び夜間を主とするコースの学部数を内数で示す。
4 小論文、面接及び実技検査の各欄は、推薦入学等に係るものは除いてある。

② 学力検査の受験科目数

区 分		学部数	学力検査を課さない		平均科目数	受 験 科 目 数 分 布				
						0～4 科目未満	4～8 科目未満	8～12 科目未満	12～13 科 目	計
			全学的 学部数%	学部・学 科の一部 学部数%		学部数%	学部数%	学部数%	学部数%	学部数%
人文科学系	国立	34		3(8.8)	5.3	7(20.6)	21(61.8)	6(17.6)		34(100.0)
	公立	24		4(16.7)	4.2	13(54.2)	8(33.3)	3(12.5)		24(100.0)
社会科学系	国立	56		6(10.7)	4.8	24(42.9)	21(37.5)	11(19.6)		56(100.0)
	公立	20	1(5.0)	2(10.0)	5.0	5(25.0)	10(50.0)	5(25.0)		20(100.0)
理 学 系	国立	29		3(10.3)	5.3	12(41.4)	10(34.5)	6(20.7)	1(3.4)	29(100.0)
	公立	3			10.3			3(100.0)		3(100.0)
工 学 系	国立	54		1(1.9)	5.3	10(18.5)	32(59.3)	12(22.2)		54(100.0)
	公立	5			9.4		1(20.0)	4(80.0)		5(100.0)
農 学 系	国立	37		7(18.9)	3.7	26(70.3)	5(13.5)	6(16.2)		37(100.0)
	公立	2			5.5		2(100.0)			2(100.0)
医 歯 学 系	国立	52	1(1.9)		7.2	4(7.7)	20(38.5)	28(53.8)		52(100.0)
	公立	9			8.7		1(11.1)	8(88.9)		9(100.0)
	私立	1			11.0			1(100.0)		1(100.0)
薬 学 系	国立	11			6.9	1(9.2)	5(45.4)	5(45.4)		11(100.0)
	公立	3			5.3		3(100.0)			3(100.0)
教員養成系	国立	50	3(6.0)	38(76.0)	2.5	44(88.0)	5(10.0)		1(2.0)	50(100.0)
	公立									
商 船 学 系	国立	2			4.0	1(50.0)	1(50.0)			2(100.0)
	公立									
家 政 学 系	国立	2			6.9		2(100.0)			2(100.0)
	公立	8		5(62.5)	1.6	7(87.5)	1(12.5)			8(100.0)
教 養 学 系	国立	1			6.5		1(100.0)			1(100.0)
	公立									
芸 術 学 系	国立	2		2(100.0)	1.3	2(100.0)				2(100.0)
	公立	5	5(100.0)		0	5(100.0)				5(100.0)
体 育 学 系	国立	1	1(100.0)		0	1(100.0)				1(100.0)
	公立									
学 群	国立	6		3(50.0)	3.1	3(50.0)				6(100.0)
	公立									
文 類	国立	6			8.0	1(16.7)	2(33.3)	3(50.0)		6(100.0)
	公立									
理 類	国立	6			10.0			3(50.0)	3(50.0)	6(100.0)
	公立									
そ の 他	国立	1			3.0	1(100.0)				1(100.0)
	公立									
計	国立	350	5(1.4)	63(18.0)	5.0	137(39.1)	128(36.6)	80(22.9)	5(1.4)	350(100.0)
	公立	79	6(7.6)	11(13.9)	5.0	30(38.0)	26(32.9)	23(29.1)		79(100.0)
	私立	1			11.0			1(100.0)		1(100.0)

(注) 1 北大、東大の19学部(北大9、東大10)については、文類、理類に分類した。

◎共通第1次学力試験に関する問い合わせ

共通第1次学力試験に関する問い合わせは、文書で行うこと。封筒の表に「受験問い合わせ」と朱書し、260円切手をはり付けした返信用封筒(住所、氏名を表書きしたもの)を同封すること。

◎問い合わせ先

〒153 東京都目黒区駒場 2 丁目19番23号

大学入試センター事業課

電話での問い合わせは、やむを得ない場合に限る。

受験問い合わせ専用電話 03 (465) 8600

(平日 9時30分から17時)
(土曜日 9時30分から12時)

この冊子からの転載、複製は自由です。
ただし、出所を明記してください。

大学入試センター

(管理部庶務課)

〒153 東京都目黒区駒場2丁目19番23号
TEL 03 (468) 3311

昭和61年7月
大学入試センター

